

皇 學 館 大 学
ボランティアルーム

平成24年度 活動報告書



目 次

担当教員あいさつ	1
代表あいさつ	2
1. コーディネート状況報告	
・平成 24 年度ボランティアコーディネート活動報告	5
・ボランティア参加学生代表の感想	9
2. ボランティアルーム企画活動報告	
・コミュニケーショントレーニング講座 活動報告	13
・障がいを学ぶ会 活動報告	17
・災害報告会 活動報告	21
・上半期ボランティア体験報告会 活動報告	24
・メッセージ from 東北 since3.11 活動報告	26
・サマースクール 活動報告	29
・災害発信 活動報告	33
・第 21 回全国ボランティアフェスティバル 活動報告	34
・第 51 回倉陵祭展示 活動報告	37
・東北ボランティア 活動報告	40
3. アンケート報告	
・平成 24 年度全学生対象アンケート報告	47
4. 資料	
・平成 24 年度 スケジュール	55
・平成 24 年度 募集一覧	56
・平成 24 年度 学内登録ルームスタッフ一覧	59

平成 24 年度をふりかえって

担当教員：叶 俊文（教育学部）

伊勢学舎にボランティアルームを移して、2 年目が終わろうとしている。果たしてボランティアルームは皇學館大学に定着したのだろうか？

社会福祉学部のあった名張学舎でのボランティアルームを中心的に支えてくれた学生が昨年度に卒業して、社会福祉学部の最後の学生たちと伊勢学舎の学生たちがボランティアルームを運営するという形でスタートを切った。昨年度の反省を活かして、これからボランティアを始めようと考えている学生のための講座や障がいに関する基礎知識を紹介する講座などを開き、4 月は順調なスタートを切ることができた。しかし、ここから色々なことがあったような気がする。

一つは学生の講義による多忙さであった。今年度の主流になるはずであった 2 年生がとにかく講義が多い。そのためにミーティングやボランティアルームへの貼り付けが思うように組めないという状況になった。その結果、コーディネート業務に専念するという期間が続いてしまった。

二つ目はこの多忙さによってボランティアルームに来ることができないということから、主流である 2 年生が退くという状況になったことである。これはボランティアルームにとって大きな痛手となった。講義によって多忙になることは予測していたが、退くことは想定外であった。「数は力である」ということが言われるが、その数が減少したことになる。この段階で 4 年生 3 名、新人の 3 年生 2 名、新人の 1 年生 4 名という構成で動かなければならないという状況に陥った。

秋になり 4 年生が卒業研究に専念してからは、1 年生が中心に必死でコーディネート業務を実行してくれた。これだけは確実に進めていかなければ、地域の方々に迷惑がかかるというボランティアルームの根本を理解してくれたことの表れであろう。そして、流行の SNS を利用しての情報発信を進め、ボランティアルームの更なる進化を考えてくれたことは彼らの素晴らしいところであろう。

現在、1 年生は 10 数名に拡大して活動の中心を担ってくれている。正に数は力である。そして、ボランティアの根本を理解していた社会福祉学部の 4 年生は卒業し、本当の意味での皇學館大学ボランティアルームが始まることになる。1 年生が 2 年生に上がったときに講義に追われることは分かっている。そこで彼らがどのような判断をするのかは未知のところである。しかし、この 1 年生の学生たちがこれからのボランティアルームを担ってくれることを期待している。

最後に、不慮の事故で他界した現代日本社会学部 2 年市川弥生について記しておく。彼女はこれからのボランティアルームを支えてくれる人材であったことは間違いない。多くの学生や友人に好かれ、その笑顔が多くの人たちを支えてくれていた。それは、この 1 月に開催した彼女が作成した災害ボランティアの状況を伝える会に多くの学生が駆けつけ、涙を流していたことから理解できる。本当に惜しい人材を失ったことが残念でならない。彼女の意志を忘れずに前進していきたい。

「名張」から「伊勢」にバトンタッチ

社会福祉学部社会福祉学科 4 年 榎本恵実

2012 年 10 月。一人のスタッフがこの世を去りました。こうして月日は変わらずに経ちますが、まだ学内やボランティアルーム、伊勢の町のどこかに彼女がいるような気がしてなりません。しかし、彼女の死が周囲にもたらしたものは悲しみだけではありません。今まで彼女が持ち続けていた被災地への関心、ボランティアへの興味や意欲が彼女の友人達に芽生え始めました。ボランティアルームには彼女の意志を引き継ごうと決意に燃えるスタッフがいます。この波紋はだんだん広がりを見せ、多くの学生の心を動かしています。

同じ学生スタッフである彼女のことを私達は決して忘れません。弥生、ありがとう。

伊勢に統合して 2 年目。1 年目の「伊勢での運営形態を作ること」を基盤に、本年度は「根付くこと」「広めること」「引き継ぐこと」の 3 つを目標に活動してきました。

1 つ目の「根付くこと」は去年ボランティア登録しなかった学生が新しく登録したり、教職員が学生に紹介してくださったりと支持を得ることができたことから、学内に根付くことができたと思います。2 つ目の「広めること」はスタッフが増えたことにより、周囲の学生の出入りが増え、ルームの存在は広まりました。また、去年参加したボランティアに友人を誘う、誘われた友人は個人で別のボランティアにも参加するという事例もあり、友人から友人へボランティアが広まっていました。

そして 3 つ目の「引き継ぐこと」は本年度最大の目標でした。社会福祉学部最後の入学生である私達 4 年生にとって最後の 1 年。どうすれば新しいスタッフにボランティアルームを分かってもらえるか。自立してくれるか。試行錯誤の繰り返しでした。けれど手をかけたところから掠めていく。また一人また一人とすれ違っていく。とても悩んで、悔しんで、もどかしい。10 月まではそんな思いでした。

転機は突然の訃報と共にやってきました。この日を境にスタッフ達の心に変化が見られました。当番の時間以外には立ち寄らなかったスタッフが、授業と授業の合間に立ち寄るようになっていたり、企画を立ち上げたり。心境の変化は行動の変化に変わり、いつの間にかそれぞれに強い意志を持つ「スタッフ」として自立していました。

本年度の目標はひとまず果たせ、躊躇することなく「名張」から「伊勢」にバトンを渡せます。そして名張で立ち上がった壁が再び伊勢で立ち上がるかもしれない。そんなときは過年度からルームの歴史を学び、伊勢版ボランティアルームの活動に役立てて欲しいと思います。私達も後輩達を見守り、時には手をさし伸べて行きたいと思っています。

最後になりましたが、ボランティアルーム開設当初からご支援・ご指導いただいている教職員の皆様、伊勢学舎への移設にあたりご協力いただいた教職員の皆様、そしてボランティア依頼やボランティア学生の受け入れをしてくださったボランティア関係者の皆様には心より感謝申し上げます。

そして名張学舎社会福祉学部時代の教職員の皆様、歴代の卒業生の先輩方、ボランティアルームの先輩方、ボランティア関係者の皆様。社福の学生は私達を最後にもういませんが、同じ意志を持つスタッフがここにはいます。名張で生まれたボランティアルームがある限り、ここはいつまでも「社福」の心があり続ける場所です。どうかこれからも変わらぬご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

1. ボランティアコーディネート状況報告

平成 24 年度ボランティアコーディネート活動報告

1. はじめに

皇學館大学ボランティアルームでは、学生のボランティア活動の支援を学生スタッフが担っており、ボランティアコーディネートを第一に考え活動を行っている。ボランティアコーディネートについて、今年度の活動を報告する。

2. ボランティアコーディネートは

ボランティアコーディネーターとしての学生スタッフの活動は、地域から依頼されるボランティアの調整やボランティアの受付を行い、それを学生に情報提供として地域と学生をつなぐことである。

学生スタッフが行うことで、学生スタッフがボランティアコーディネートを行うに当たって、気をつけなければならないことがある。それは、地域と学生の間を対等かつ互いが成長できる関係へと調整することである。円滑にボランティアコーディネートを行うために、連絡を取り合うことの責任をスタッフ一人ひとりが理解しておくことが大事である。

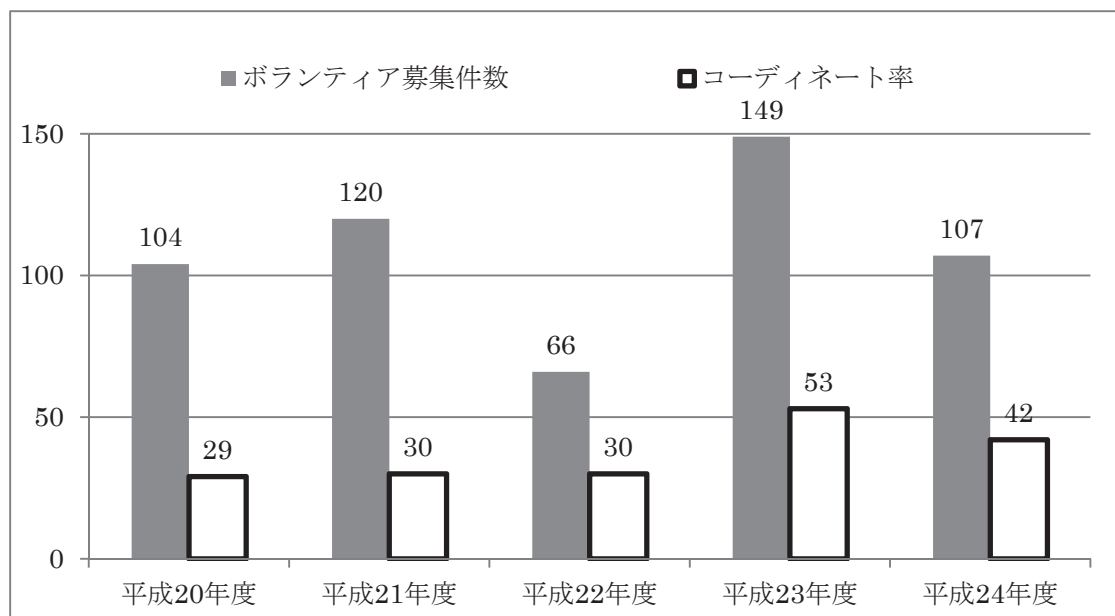
3. コーディネート状況

今年度のボランティア情報件数は、通常募集、随時募集、講習会・研修会情報、有償情報を合わせ、全 104 件であり、総コーディネート件数は 48 件であった。

今年度では、ボランティア募集件数が 104 件、そのうち学生がボランティアに参加した率は 46%であった。昨年度に比べ、募集件数が約 40 件ちかく減っている。昨年度は、名張学舎から伊勢学舎へと移行したことにより、伊勢周辺からも多くのボランティア募集がよせられた。しかし、伊勢学舎で 2 年目になったことにもかかわらず、募集件数が減っているということは、名張学舎周辺のボランティア募集が減ったのと同時に、伊勢周辺でまだまだボランティアルームの存在が薄いということが考えられる。

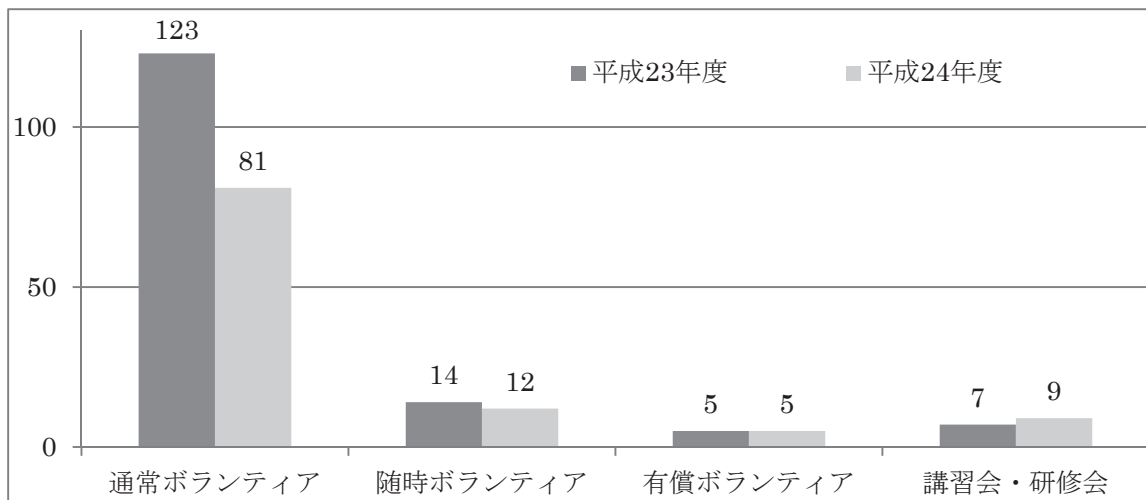
また、ボランティアコーディネート率では、昨年度は 5 割を越していたが、今年度は 4 割だった。その要因として考えられるのは、ボランティアルームの存在が学生に知られていないということである。実際に、学生からボランティアに参加したいけど、参加の仕方がわからないなどの声を耳にしたことがある。ボランティアルームの存在だけではなく、ボランティアルームはこういう場所であるということも広めていく必要がある。

平成 20 年度～平成 24 年度のボランティア募集件数と、ボランティアコーディネート率は以下のようなものである。

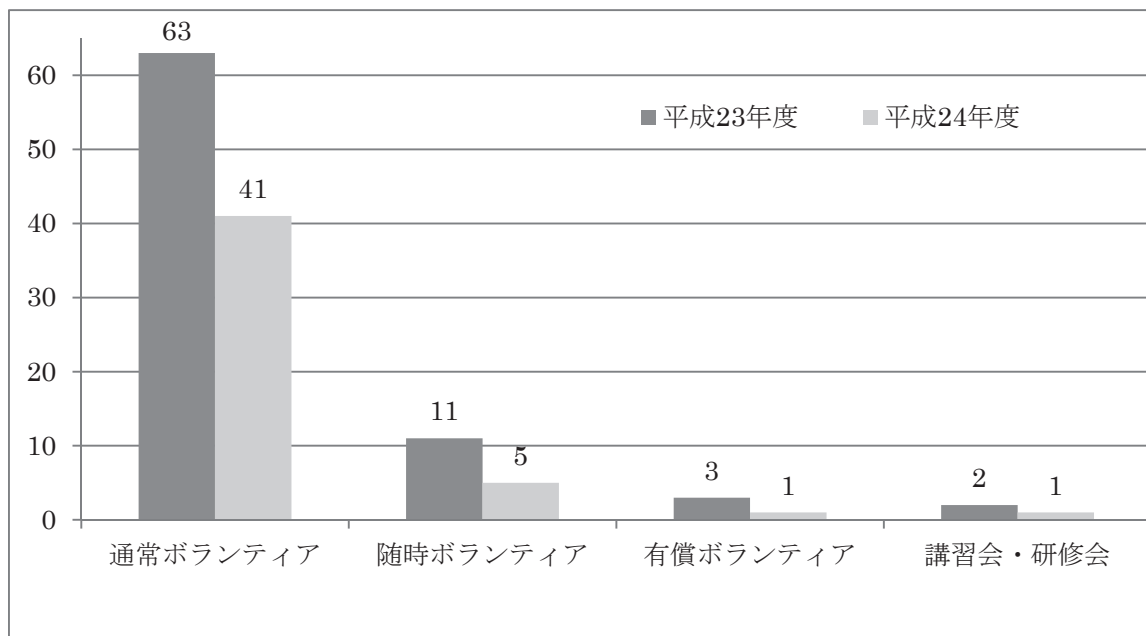


下記は、今年度のボランティア情報件数は、通常募集、随時募集、講習会・研修会情報、有償情報を合わせたものである。昨年度と比べると、通常ボランティアや随時ボランティアはボランティア総件数に対しコーディネート件数は半分ちかくコーディネートできている。これをさらに増やすために、学生スタッフも様々なボランティアに参加し、学生に伝えていく必要がある。また、通常ボランティアや随時ボランティアが減少しているのに対し、講習会や研修会は少しだが増えている。ボランティアをして感じたことを聞かせていただいたり、それをさまざまな人たちと話しあうことができるので、ぜひ多くの学生に参加してほしいと思う。

	ボランティア総件数	コーディネート件数
通常ボランティア	81	41
随時ボランティア	12	5
有償ボランティア	5	1
講習会・研修会	9	1
合計	107	48



平成 23 年度と平成 24 年度のボランティア件数



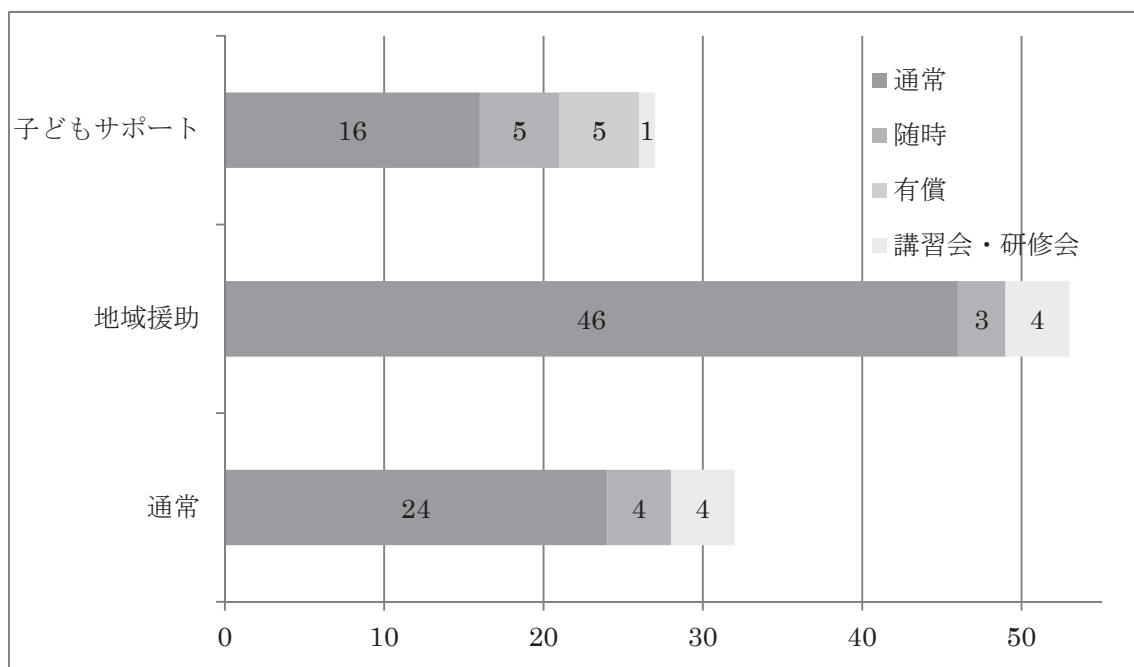
平成 23 年度と平成 24 年度のコーディネート件数

ボランティアルームではボランティア情報を

- ① 福祉系：高齢者施設、障がい者(児)、福祉競技スタッフなど
- ② 地域援助：地域イベント、災害地域援助活動、コンサートスタッフなど
- ③ 子どもサポート：託児補助、特別支援学級補助、子ども対象イベントスタッフなど

の3つのジャンルに分類し、学生に発信している。

3つのジャンルの各ボランティア情報件数は以下の通りである。また一つの情報に複数のジャンルが重なることがある。



	子どもサポート	地域援助	福祉
通常	16	46	24
随時	5	3	4
有償	5	0	0
講習会・研修会	1	4	4

グラフからも読み取れるように地域援助の情報が多い。このことから、祭りのスタッフなど地域援助ボランティアに多くの大学生に参加してほしいということかもしれない。

4. まとめ

これらの結果より、もっと学生に情報を発信したり、地域と連携するべきである。そうすることにより、学生がボランティアに興味や関心をもち、地域と連携することによって、より多くのボランティアの依頼があるかもしれない。本大学には、文学部、現代日本社会学部、教育学部といった様々な分野の学部があり、多くの学生がいる。その学生一人ひとりにあったボランティアコーディネートをしていくことが今後の課題である。

(文責：教育学部教育学科1年 大谷奈都希、川村亮仁、北村和輝)

平成 24 年度 学生ボランティアを通して

ボランティア参加者代表 教育学部教育学科 1 年 川村亮仁

私は今まで多くの人に助けてもらいながら生きてきた。だから、今度は「他人のために自分のことができることがしたい」と思ったのがボランティア活動を始めた理由だ。高校では、インターアクト部という部活動を通してボランティアに参加していたが、大学では行きたいボランティアに参加できるので高校のときよりも積極的にボランティアに参加するようになった。ボランティアルームでは、スタッフがボランティアについて一生懸命に説明してくれたり、私がボランティアに参加すると、とても喜んでくれた。ボランティアルームのみんなは、ボランティアに対して熱い思いがあり、温かい人たちばかりだなと思った。ボランティアに参加することで多くの人に喜んでもらえ、たくさんを経験できた。

私は主に子ども系のボランティアに参加している。子どもと一緒に遊んだり、お世話をしたり、運営のお手伝いをしたり、「子ども」と言っても様々なことをしました。人と接することが苦手なところもあったが、ボランティアを多く経験し、子どもに積極的に関わって仲良くなれるようになった。この事が将来活かせたらいいと思う。

最近では、ボランティアの良さや体験を多くの人に伝えたいと思い、私自身がボランティアルームのスタッフとなり、ボランティアに参加するだけでなく、良さを伝える立場になっている。また、コーディネーターを通して人見知りを克服したい!と思っている。これからもルームのみんなと楽しくボランティアの良さや大切を伝え、より多くのことを学ぶために活動も続けていきたい。

2. ボランティアルーム企画活動報告

コミュニケーショントレーニング講座 活動報告

1. 活動目的

平成 23 年度に行った全学生対象アンケート・登録学生対象アンケートの中で、ボランティアに参加するときなど、初対面の人とどのようにコミュニケーションをとればよいのか分からないので、なかなかボランティアに参加する勇気が出せないという意見があった。そこで、初対面の人とコミュニケーションをスムーズにとれるようにするにはどのようにすればよいのかを学んでいただき、ボランティアに参加するための手助けになれることを目的とした。

2. 活動内容

コミュニケーショントレーニング講座

日 時：平成 24 年 4 月 19 日（木） 17：00～18：30

場 所：711 教室

企画担当者：社会福祉学科 4 年 岡本華奈

参加人数：教職員 2 名、学生 21 名、学生スタッフ 2 名

3. 活動報告

今回の講座では、現代日本社会学部の板井正斉准教授に講師を依頼し、どのようにすればコミュニケーションを円滑にとれるのかを実践を通して教えていただいた。講義のような形式ではなく、学生が実際に参加するという形で講座をすすめていただいた。

まず、1 枚の紙に「自分の名前」、「あだ名」、「今までのボランティア経験」、「自分は実は〇〇なんです」ということを一人ひとり書き、参加学生、教員同士で自己紹介をし合った。自分が「いいな」と思ったことに対しては、相手の紙に星印や丸印をつけていった。初めは、自分からなかなか話しかけることができず、戸惑っている学生がいたが、少しずつ打ち解け、自分から話しかけている学生が多く見られた。その後、グループに分かれ、「初対面の人とコミュニケーションをとる上で難しいと思うこと」と「難しいと思うことを克服するための方法」を交流し合った。最初の自己紹介の成果もあり、どのグループのスムーズに話し合いが行われていた。

【活動風景】



3. 参加者からの意見・感想

- ・自分ができないから考えないのではなくて、主語を私たちにして私たちがどうやったら出来るようになるのかを考えればいいんだと気付いた。
- ・自分だけでなく、みんなも同じようなことで悩んでいると思えたこともあり、勇気でした。
- ・コミュニケーションは意外と簡単なことから始めれば上手くいくのではないかと考えた。
- ・失敗を恐れずに、しない後悔よりする後悔の精神と、笑顔がやはり大事なんだと気付いた。
- ・自分が困っていたことでも他の人の意見やアドバイスを聞け、こういう考え方もあるのかととても勉強になった。
- ・初めて会った人と話す時に緊張したり、会話を続けるのが苦手だという人が自分以外にもいることが分かったのですごく嬉しかった。
- ・人見知りで口下手なので、同じ悩みを持つ人たちと知り合えて嬉しかった。また、こういう機会があれば参加したいと思った。
- ・自分から声をかけるなど、自分から動いていくことが大切だと気付いた。
- ・コミュニケーションをとる上での課題やその解決策が少し分かった。すぐにコミュニケーション力がつくわけではないと思うが、少しずつコミュニケーション力をつけていきたい。

- ・自分一人では解決できないことも、他の人と一緒に考えたら解決できるのだと気付いた。
- ・普段知らない人と話す機会があまりないので、学年問わずたくさん話が出来てよかった。
- ・人の頼ることと笑顔が大切だと気付いた。
- ・緊張して参加したが、緊張の中でも楽しく話し合え、自分の中にはいいアドバイスが聞けてよかった。また、初対面の学年、学科と話ができただけのも楽しかった。
- ・自分から話かけてみたり、人の話を聞いたりするのは楽しいと思った。レクリエーションのときにリーダーになるのだけが大事というわけではないと知れてよかった。全てのボランティアが話をいっぱいするのが大事ということじゃないと知った。
- ・まだ緊張して、顔がだんだん赤くなってしまうことはあるけど、いろんな人と自己紹介をしたり、話したりするのは楽しいと思った。また、いろんな人の意見やアドバイスをいただけて嬉しかった。
- ・周りの人と友達になることを望んでも、あせらず、時間をかけて友達になっていけばよいのだと思った。
- ・コミュニケーションのとり方を知ることができたのでよかった。自分をもって今日得たことを実践していきたい。
- ・自分が心を開いて話せば、相手と打ち解けられることが分かった。
- ・コミュニケーションをとるのが苦手だったけど、たくさんの人と話しができてよかった。
- ・自分の性格は人見知りと言ってきたが、時間が経過していくうちに、なくなる気がした。
- ・話を聞くのが大好きで、ますます聞くのも話すのも大好きになった。もっといろんな人と話をしていきたい。
- ・会話をする際、第一に笑顔・あいさつが重要だということ、自分にできるかではなく、私たちに何ができるかという考え方が大切ということに気付いた。
- ・コミュニケーションが苦手なところもあり、不安だったが、楽しく受講でき、参加してよかった。
- ・コミュニケーションはどれが正しいとかはないのだと気付いた。
- ・あまり怖がらず、いろんな人と話してみることが大切だと気付いた。
- ・いろいろな人と話してみないと、相手の性格は分からないのかなと思った。
- ・初めて会った人たちばかりで最初は緊張したけど、グループ活動などで自分や相手の話を聞いているうちにだんだんと打ち解けることができた。
- ・完璧にしようとしなくてもいいと気付き、気持ちが少し楽になった。
- ・作業が遅いとき、手伝ってもらおうと声をかけにくかったが、「ありがとう」と最後に言うといいよと言われ、気持ちが楽になった。

4. まとめと反省

今回の講座は、年度始めということで、宣伝のポスターなどを先生に手伝っていただいた。先生の協力もあり、比較的早い時期から、学生に情報を発信することができ、多くの学生が参加してくれた。また、講師の先生と事前に打ち合わせを行い、当日もスムーズに進めることができたと感じた。参加学生からは、いろいろな気づきがあったと意見をいただき、少しでもボランティアに参加するための手助けになれたのではないかなと思う。

しかし、年度始めであったこともあり、1年生の参加が少なく、少し期間をあけてもう一度コミュニケーショントレーニング講座を開催するべきであったと思った。

これからも、このような講座をすることで、学生のボランティアに対する抵抗を減らすことができ、ボランティアに参加する学生が増えていくのではないかと考えた。

(文責：社会福祉学部社会福祉学科 4 年 岡本華奈)

障がいを学ぶ会 活動報告

1. 目的

前年度のコーディネート活動中や学生へのアンケートなどから、福祉分野のボランティアに関心があるが「障がい」にハードルを感じ、ボランティアへの参加を躊躇していることが分かった。このハードルを越える第一歩としてこの障がいを学ぶ会を企画した。

2. 活動内容

日時：平成 24 年 5 月 23 日(水)16：30～17：30

場所：732 教室

講師：榎本悠孝先生（現代日本社会学部）

内容：うつ病や統合失調症、不安障害などメディアで最近注目されているものの目に見えにくい障がいである「精神障害」について一緒に学習する。精神障害を持つ人の生活上の難しさ、思い、援助のあり方、また偏見や差別、人権の問題について事例を交えながら紹介していく。

3. 活動報告

榎本先生より精神障害がとても身近であることや、私達が持ってしまっている「偏見」こそが当事者たちの可能性を狭めてしまっていることを伝えていただいた。学生もノートに書き記すなど真剣に聴講している様子であった。

4. 受講後のアンケート結果

1) この講座への参加理由

ポスターをみた／メール配信から／友人に誘われた

2) 精神障がい者との関わりがあるか

はい(2人)／いいえ(5人)

3) 講座を受ける前の障がい者へのイメージ

- ・身近に多いイメージ
- ・ちょっと変わった人
- ・大半の人がネガティブな思考を持ち、高齢者に多い。他の人と比べて変わったところがある
- ・怖い
- ・心が暗い笑顔がない
- ・自分では感情をコントロールすることが難しく怖いというイメージ
- ・何を考えているか分からないし、一緒に生活をしたら暗い気分をもらってしまいそう

4) 講座を受けた後の障がい者へのイメージ

- ・障がい者自身が「信用、期待をしてもらえず、失敗しても叱ってもらえない」と思っていること、動作の不便よりも人間関係を築きにくくなるということに対して障がいマイナスになっていると感じていることを知って衝撃的だった
- ・普通に接することができるのだとわかった。機会があればぜひ交流したい

- ・ネガティブさが薄れた
- ・怖いイメージは抜けきれないが個性を持った人だと考えればいいんだなと思った。精神障がい者であったとしても一人の人間であり、一人ひとりの個性がある同じ市民であると思いました
- ・いっぱい話してくれたりコミュニケーションもできる。千差万別な人というイメージに変わった
- ・身近に少ない

5)精神障がい者と交流する機会があれば参加したいと思うか。

はい(7人)／いいえ(0人)

6)講座に参加した感想

- ・もっと広まって欲しい
- ・新しいことを知れてよかった
- ・精神障がい者の人と関わったことがなく、指針額的な内容も余り知らなかったなので、今回講座に参加していい経験ができた
- ・授業の総復習のようで役立ちました。精神障がい者と関わるボランティアにも参加したいと思います
- ・うつ病とよく聞くけど、精神障害について何も知らなかった。この講座に参加し、もっと知りたいと思ったし、福祉に興味を持った。
- ・精神障害に対するイメージがガラリと変わりました。

精神障害は、家族や友人たちとの関わりも、治療もとても難しい問題であると分かりました。このような講座で新しい発見があり、お話を聞かせていただいて、本当に良かったです。

5. まとめ・反省

以前から「障がい」とつくボランティアへの参加が伸びなかった。その原因は障がいへの後ろ向きのイメージと、「どう接していいかわからない」「何も知識も技術もない私に、このボランティアができるか不安」などの不安であった、例えボランティアの活動内容が同じでも、現場に障がい者がいるかいないかでは学生の受け取り方に違いが伺えた。

今回、障がいを当事者の目線で学べたことで、学生達を持つ障がいへのイメージが大きく変わったことだろう。この講座での学びを生かし、これからは身構えせず積極的に参加し、障がいへの後ろ向きのイメージをぜひ変えて行って欲しいと思う。そしてこの学びと経験を広めて欲しいと思う。

6. 参加者名簿

1年	教育学科	大谷奈都希
2年	現代日本社会学科	濱川真規子
		濱口実央
		島田紗弥
		市川弥生
3年	教育学科	小林祥子
4年	神道学科	山田浩紀

(文責：社会福祉学部社会福祉学科 4年 榎本恵実)

【資料1：活動風景写真】



福祉系ボランティア支援講座 障がい者勉強会 アンケート

本日は障がい勉強会に参加していただきありがとうございます。
参加した感想やご意見をお聞かせください。

1. 講座に参加しようと思った理由は何ですか？

- ☐ポスターを見て ☐ボランティアルームのメールを見て
☐友達に誘われて ☐通りすがりに
☐介護等体験に行くにあたって
☐その他

()

2. 今までに精神障がい者と関わった経験がありますか。

はい ・ いいえ

3. 講座を受ける前の精神障がい者に対するイメージはどのようなものでしたか。

--

4. 講座を受けて精神障がい者に対するイメージは変わりましたか、またどのように変わりましたか。

--

5. 精神障がい者との交流する機会があれば参加したいと思いますか。

はい ・ いいえ

6. 講座に参加した感想をお聞かせください。

--

ご協力ありがとうございました。

ボランティアルーム

災害報告会 活動報告

1. 活動目的

東日本大震災から、1年以上たち、私たちは忘れてはいけなことがたくさんある。しかし、世間では風化が起き、人々の震災への意識も低下しつつある。そんな中、もう一度思い出してほしい、今の被災地を知ってほしいという思いで、この災害報告会を開催した。

2. 活動内容

日 時：平成 24 年 6 月 25 日（月）16：30～17：30

場 所：211 教室

対 象 者：一般学生、教職員

企画担当者：教育学科 3 年 小林祥子 教育学科 2 年 前川のはら、
現代日本社会学科 2 年 市川弥生 教育学科 1 年 大谷奈都希

【タイムスケジュール】

16：30 スタート・説明

16：35 ①現状報告 PPT

16：45 ②現地ボランティア報告 PPT

16：55 ③自己紹介・感想

17：20 アンケート記入

- ①1 年 3 ヶ月後の被災地の現状をパワーポイントで説明し、
三重ボラパックなど現地ボランティアの募集があることなどを説明した。
- ②今年 3 月と 4 月に現地ボランティアに参加したボランティアルームスタッフの
写真や感想をパワーポイントでスライドショーした。
- ③椅子を丸くして自己紹介とそれぞれの感想を話し合いをした。

3. 活動報告

まず初めに、今の被災地を知ってもらおうと、震災の写真や、今の被災地の様子の写真を見た。震災当時は、がれきが散乱したが、1 年後の被災地は、がれきはなにもなく、少し草だけが生えている状況だった。綺麗に片付いてあるように見える一方で、なにもない土地からは復興しているとは感じ取ることはできなかった。1 年たって、ようやく復興段階に立ったのかもしれない。これからが復興なのだと、ボランティアルームのスタッフは訴えた。

次に、実際に東北にボランティアに行ったボランティアルームのスタッフからの訴えがあった。なぜ、東北のボランティアに行こうと思ったのか、ボランティアに行ったときの

写真や、行った後の感想などを述べた。道の上に大きなドラム缶があったり、積まれているだけのがれきの山、建物の中には片づけられていない多くのがれきなどの写真を見て、参加者は、唖然とするばかりだった。そのスタッフは、最後に「ボランティアに参加して、今の自分の当たり前の生活が本当に幸せなことなんだと気付かされた。大学生は人生で一番、時間と元気と体力に余裕があるとき！一人でも多くの人が意識を持ってほしい！」と訴えていた。

その後、椅子を丸くして、一人ずつ話し合った。実際にボランティアに行った学生から、話しをしてもらい、全員で話しあった。もっと、東北の情報を知っていこう、東北以外の災害についても知る必要があると考えた。

4. 感想

1年前と今を比べた写真では、がれきが片付いていてきれいになったように見えた。しかし、視点を変えれば、がれきは片付いていてもそこにはなにもなく、“復興”はそこには見られなかった。ボランティアルームのスタッフが訴えたように、ここからが復興なんだ！と感じた。自分たちはこの写真で様々なものを感じ取れた。震災当時と1年後を比べた写真はインターネットで調べたりするしか、なかなか見ることはできない。この写真の比較を多くの学生に見てもらって、これからが復興なんだと感じてほしいと思った。

実際に東北に行ったスタッフの話は、やっぱり実際に見てきたこともあり、心に残ることが多くあった。がれきの山の写真を見て、一部の写真だけ見るとがれきが片付いたように見えるけど、がれきの山を見て、ただ横に積んでいるだけ…と感じた。そのスタッフが、自分たちは本当に幸せと言っていて、本当にそのとおりだと思った。こんな幸せな生活をしている私たちが、今の日常生活に感謝し、こんな私たちだからこそ、東北の人の力に少しでもなれるように、東北のためになにか取り組んでいくべきだと思った。たとえば、募金や支援、東北に足を運ぶこともできたらもっとしていきたい。しかし、それ以前に東北のことを忘れないこと、あの地震を忘れないこと、様々な人の思いを無駄にしないことが大切である。スタッフの貴重な話や、グループワークでの話し合いでできた話は、私の心に響いた。この企画をして、もっといろんな学生に知ってもらいたい！と感じた。

5. 反省

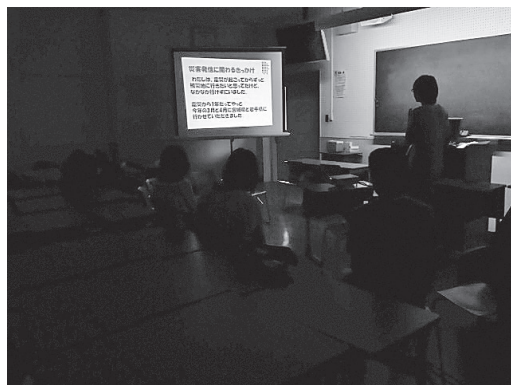
今回の災害報告会での反省点は、一般学生からの参加が1名しかいなかったことである。その要因として2点あげられる。1点目は、準備に取り組むのが遅かったことである。ポスターを展示するにあたって、作成が遅かったため展示願いを出すのが遅れ、1週間前からポスターを張り出せなかった。メール配信だけでなく、学生が学内で目に付くポスターをはやくから張り出すことで、一般学生も興味をもち、もってきくれたと思う。

もう一つの要因として考えられるのは、風化問題があげられる。昨年度行った災害報告会では、一般学生から多くの方が参加してくれた。それは、東日本震災がおき、多くの学生がボ

ランティアに参加するなど、災害に興味や関心をもったためだろう。しかし、震災から1年たった今、興味や関心が薄れ、世間でも風化が問題となってきた。その問題が、この災害報告会の参加人数にも反映しているのだろう。

今回の災害報告会としては、震災直後の様子と今の被災地の様子を、比較した写真を使った資料や、去年ボランティアに行った生徒の写真を見たり、実際に東北にボランティアに行った学生の話しを聞き、たくさん意見交流をできた。改めて、震災や災害について考え直すことができた。参加者から「震災のことを忘れてほしくない」という意見がたくさん出た。そのため、これからの災害報告会では多くの学生に災害報告会に参加してもらい、震災のことや他の災害のことなどを改めて考え直してもらえるような報告会を目指したい。今回の反省を活かし、事前からきちんと準備をし、多くの学生に呼びかけていくよう努力したいと思う。
(文責:教育学部教育学科3年 小林祥子 現代日本社会学部現代日本社会学科2年 市川弥生)

6. 風景



上半期ボランティア体験報告会 活動報告

1. 目的

ボランティアに参加したいけれども第一歩が踏み出せない学生がいるということから、夏休みにボランティアに行ってもらえるようになるためのきっかけを提供することを目的とした。

また、上半期にボランティア活動をした学生にも活動報告をしていただき、学生同士の思いを共有していただこうと実施した。

2. 活動内容

日 時：平成 24 年 7 月 12 日（木）16：30～17：30

場 所：711 教室

企画担当者：教育学科 3 年 長谷奈留美 教育学科 1 年 黒田ゆかり

現代日本社会学科 1 年 久保 圭

報 告 者：教育学科 1 年 川村亮仁

3. 活動報告

参加人数が少なかったため、会話形式で報告していただいた。川村さんに今までのボランティア体験を話していただいた。ボランティアを始めたきっかけ、楽しかったボランティアの思い出などを報告していただいた。

また、学生スタッフにもボランティア体験について話していただいた。

この報告会によって参加学生の多くは、東北の被災地へのボランティアに興味関心があることがわかり、今後被災地支援ボランティアに学生が参加できるような体制を整えていく必要があると感じた。

4. 参加者からの意見（アンケートより）

- ・もっと多くの学生のボランティア活動について聞きたい。
- ・同じ学生から話を聞きかけて刺激的だった。
- ・夏休みのボランティアについて知りたい。

5. まとめ・反省

日程調整及び準備不足で学内への告知が遅かったため、参加人数が非常に少なかった。しかし、少人数であったために学生の声をしっかり聞くことができたと思う。

ボランティアに参加したいけれども、1 人で行くことの心細さを学生が持っていることを感じた。また、東日本大震災が発生してから約 1 年半を経過していたこともあり、参加学生の多くが現地へ行ってボランティアをしたいと考えている声も聞くことができた。1 人でボランティアに行く不安は、多くの学生が抱えている問題ではないかと思う。その問題を解消するには、ボランティアに参加する学生同士をつなげるきっかけが必要であると感じた。また、学生スタッフがボランティアに対して不安を抱える学生の相談に乗ることも大切な役割になると感じている。

被災地支援ボランティアに参加したいという学生のために、ボランティアルームが情報の発信源となって彼らに伝えていかなければ、意欲のある学生の背中を後押しできないと思った。また、実際に現地でのボランティア活動に参加した学生による活動報告の場をもうける必要があると感じた。

(文責：現代日本社会学部現代日本社会学科1年 久保 圭)

メッセージ from 東北 since 3.11 活動報告

1. 活動目的

東北の震災からもう少しで2年が経とうとする今、被災地の現状、被災地の方からのメッセージを被災地に実際にボランティアとして現地に入ったスタッフが作成した映像を見てもらい、少しでも被災地のことを考え、「私たちが忘れてはいけないことを、沢山のの人に感じてほしい。」という思いが私たちを動かしました。私たちには伝えていかなければならない思いを込めて「メッセージ from 東北 since 3.11」と名付けた。

2. 活動日時

日 時：平成25年1月25日（金）

1部 16：30～17：30

2部 18：00～19：00

場 所：722教室

企画担当者：教育学科1年 黒田ゆかり、大谷奈都希

3. 活動報告

告知は、ボランティア登録者に対するメール配信、ポスターの掲示、SNSでの情報発信を行った。また、友達から友達へと伝えてもらった。

スタッフであった市川弥生さんの作った映像を元にしながら行った。

映像の中身は、被災地の写真や震災当時の心境、私たちに望むことなど、被災地の人にインタビューした内容を見てもらい、市川弥生さんからの最後のメッセージを流した。映像に使われた写真は、建物は無い風景、ボロボロになった家や、瓦礫の山、中身が丸見えの校舎や、マンションの4階まで津波が襲った跡などだ。まだまだ復興されていないと感じる写真の数々であった。インタビュー内容は、被災地の人の願いというテーマで、1000年先まで伝えていきたい。そのためにまず10年先まで伝えていき、それが出来たらまた10年先まで伝えていきたい。伝えてもらった人はまた違う人へ伝えていって欲しいという願いがある。その後、一人一人にアンケートを書いてもらった。

参加学生は、涙を流しながら、映像を真剣に見ていて、今を一生懸命に生きること、東北のことを忘れてはいけないということを感じた。

【活動風景】



4. 参加者からの意見（アンケートより）

感想

- ・ 現地の人や被災された人の話を聞かせてもらうのは初めてだった。
- ・ 災害の怖さ、被災地の現状に改めて気づかされた。
- ・ 今、生かされている、ありがたさや奇跡を教えてもらった。
- ・ 自分に出来ることを見つけ、被災地のために何かしたい。
- ・ 命の大切さと大切な人がいなくなってしまう悲しさを改めて痛感した。

5. まとめ・反省

初めて映像だけを使う企画だったけれど、1部と2部で沢山の人が参加してくれた。企画をする時に注意したいことは、全学生が参加出来るような時間に行うことだと感じている。なぜなら、この企画も最初は、1部だったけれども、2部に増やし、1部に参加出来なかった学生が2部に参加してくれたことだ。

（文責：教育学部教育学科 1年 黒田ゆかり）

6. 参加者名簿

1年	教育学科			現代日本社会学科	
	松葉孝介	山田梨乃		別所沙恵	平賀優史
	田畑優美	山本清楓		藤原万凜	村井直樹
	現代日本社会学科			楠木悠希	
	綿民舞			コミュニケーション学科	
2年	教育学科			渡壁由衣	吉高彩可
	平岡愛子	中野今日子		増田幸典	陶山貴史
	岡田敏幸			井上真帆	
	鈴木裕貴	角谷佐和子	3年	現代日本社会学科	
	大橋拓	北川桃子		木本瑞穂	北地蒼
	小寺延欣	内海瑞樹	4年	国史学科	

	森田恭平	倉田洸輔		中世古諒児	岡本華奈
	北川雅恵	相賀仁美		社会福祉学科	
	武藤厚志	岡田智寛		山本早紀	
	東倉瞳	中村楓		その他	
	喜多嶋祐衣			遠藤洋也	西谷佳純

サマースクール 活動報告

1. 活動目的

松阪市社会福祉協議会では夏休み休暇中の小学生を対象とし、毎年サマースクールを開催している。小学生にボランティアとはどのようなものか、ボランティアをしたいときはどうしたらいいのかなどを知ってもらうために、毎年さまざまな企画を計画し、実施している。

今年度も皇學館大学ボランティアルームと合同で企画を進めていくこととなった。皇學館大学ボランティアルームがこの企画に携わるのは、今回で5回目となった。今年は、ろうそくを溶かし、クレヨンで色を付けて、自分オリジナルのろうそく作りを行うことにした。

2. 活動内容

日時:平成24年8月8日(水)、8月17日(金)、8月27日(月)

場所:松阪市社会福祉会館

対象者:松阪市内の小学生

企画担当者:教育学科3年 小林祥子 現代日本社会学科2年 市川弥生

教育学科1年 大谷奈都希、黒田ゆかり

【タイムスケジュール】

10:00 学生ボランティア対象 キャンドル作り(試作品)

11:00 勉強タイム

12:00 お昼タイム

13:00 キャンドル作り

14:00 お菓子作り

15:30 キャンドルに火をつける

16:00 終了

3. 参加者名簿

1 年		2 年			3 年	4 年
西村友希	大谷奈都希	浦羽未来帆	大西由美子	濱田佳奈美	小林桃子	榎本恵実
堤文香	黒田ゆかり	田中亜湖	槇得翔太	喜多瞳	小林祥子	石橋美香
井上瑞葵		安島茜	市川弥生	田端美紀	長谷奈留美	岡本華香
鈴木絵里		宇城芳紀	前川のはら		横山麻衣	

計 24 名

4. 活動報告

参加学生と松阪駅で集合し、松阪社会福祉協議会に向かった。到着後、本日の打ち合わせをし、一度練習でキャンドルを作り、作り方や注意事項などを説明した。次に、準備する班と宿題を教える班に分けた。宿題を教える学生は、子どもたちとコミュニケーションをとりながら、子どもたちに宿題を教えた。準備する班は、キャンドル作りで必要な、鍋やコンロの設置や、机の配置をした。12時から、みんなで昼食を食べ、13時からのキャンドル作りに備えた。キャンドル作りでは、司会の学生が前にたち、キャンドル作りの説明をした。各グループに分け、キャンドル作りをした。30分後、様々なキャンドルが完成した。次にお菓子作りをした。お菓子作りでは、子どもたちが積極的にお菓子作りに参加している光景が見受けられた。その後、みんなで作ったお菓子を全員で食べた。食べ終わってから、工作した場所に戻って、みんなで撮影会をした。キャンドルに火が灯されたとき、子どもたちからは笑みがこぼれた。子どもたちが帰ったあと、参加学生とスタッフで、本日の反省をし、来年につなげていこうとみんなが意見を出し合った。

5. 参加者からの意見

- ・ こどもたちとかかわることができてよかった。
- ・ 火を使った工作だったので、子どもがやけどしないか心配だったけど、ケガがなくてよかった。
- ・ 子どもたちに勉強を教える機会があまりないので、こういう体験ができてよかった
- ・ はじめは、私たちの方からこどもたちに話かけていたが、工作やお菓子作りをするうちに子どもたちの方から話しかけてくれてよかった。
- ・ 司会を当日決めたので、もっと前もって決めるか、台本があればもっとスムーズにいったと思う。

- ・もっとこのボランティアに参加してほしいと思った。
- ・このボランティアに参加してよかった。

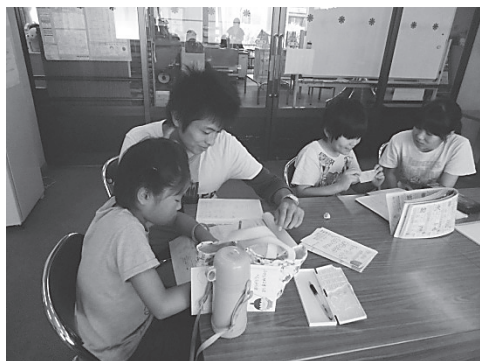
6. 反省・感想

今回のサマースクールもたくさん子ども達が参加してくれた。キャンドル作りでは、カッターナイフや火を使ったが、怪我もなく出来たことは、参加してくれた学生さんが責任感を持ってしてくれたからだと思う。また、子どもたちも楽しく、段取りよく、準備よく終わったのは、松阪市社会福祉協議会ボランティアセンターの方々のサポートがあったからだと思います。本当にありがとうございました。

サマースクールの反省点は、司会を当日に一般学生に頼んだ為、サマースクールの流れを掴めていなかった。サマースクールの募集をかける時に、事前に司会をしてくれる人の募集かけると良いと思う。そして、司会もマニュアルを作っておくとより、スムーズにいくだろう。

(文責:教育学部教育学科3年 小林祥子, 1年 黒田ゆかり)

7. 活動風景



子どもたちの宿題のサポート



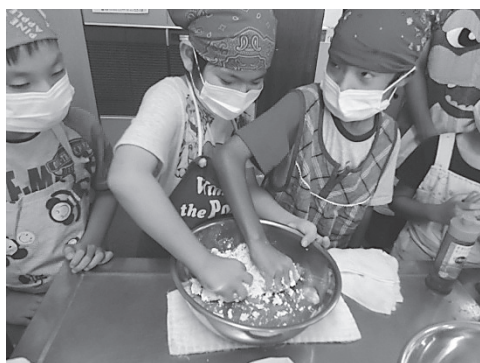
ろうそく作りの説明



熱いから気をつけてね！



丁寧に教える学生ボランティア



お菓子作りもがんばりました！



みんなで食べたよ！



作ったろうそくに火をつけた



最後はみんなで記念写真

災害発信 活動報告

1. 目的

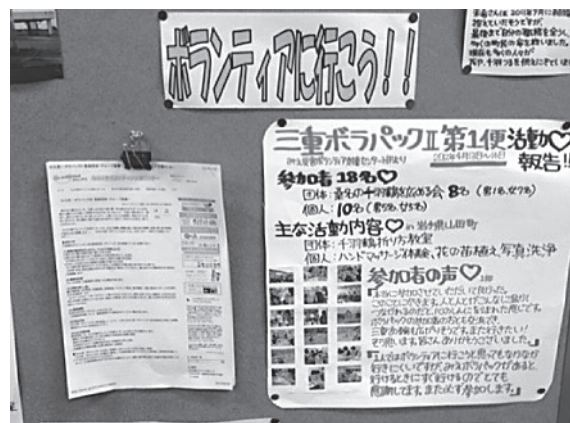
掲示板を通して、学生に災害について興味・関心を常に忘れないものにしてもらうために、毎月更新することで、最新の災害情報を与え続けようと、9月から6号館1階に掲示を始めた。

2. 反省

定期的な情報更新が思うようにできなかった。しかし、掲示板には、被災地の現状や三重発信の東北ボランティアのボラパックの情報も掲載しており、学生に伝えたい情報となっている。この掲示板が毎月更新されていれば、学生の災害やボランティアに対する意識も少しは変わったのではないかと考える。現に、学生のなかで、東北にボランティアに行きたいと言ってきた学生もいる。そんな学生たちに私たちは情報を与える立場でもある。今後も、この災害発信の掲示板は続けていき、一人でも多くの学生に情報を与えていこうと思う。

(文責:教育学部教育学科1年 大谷奈都希)

3. 災害発信の掲示板



第 21 回全国ボランティアフェスティバル 活動報告

1. 目的

全国ボランティアフェスティバルが今年は三重県で開催された。全国のボランティア関係者や来場者にボランティアルームの活動を知ってもらう絶好の機会である。このフェスティバルにボランティアルームの顧問である守本教授、板井教授も運営に関わっており、本学も会場となったということもあり、展示のブースを頂いて参加することになった。

2. 開催期間

9 月 29 日（土）津会場＊三重県総合文化会館

9 月 30 日（日）津会場＊三重県総合文化会館、伊勢会場＊皇學館大学 7 号館

3. 内容

＊津会場

ルームの説明ポスター、コミュニケーショントレーニング講座の報告ポスター、20 年～21 年の報告書、ボランティアルームのパンフレットを展示した。隣ではカンボジア支援団体 CSU の展示を行った。CSU の活動に本学教育学科 2 年生の学生が参加しており、ボランティアルームは CSU の広報活動を支援する形で関わってきた。（CSU については「CSU カンボジア」で検索。Face Book もある。）

津会場で行われた「大学生の本音トーク」へスタッフ 2 名が参加。

＊伊勢会場

ルームの説明ポスター、CSU 説明ポスター、20 年～21 年の報告書、活動風景写真を展示。車いす神宮参拝ボランティアの黒田さんと共に展示を行った。スタッフ 2 名が常駐。

フェスティバル自体は二日間の開催であったが、台風の影響で 2 日目は午前開催となり午後に予定されていた日程は全て中止となった。

4. フェスティバル参加スタッフの感想

＊台風の影響で雨がすごく降っていて、参加者は少ないかと思っていたが、予想以上に参加してくれていて、ボランティアに興味がある人がこんなにもいるのだと驚き、また嬉しかった。

【西村友希：9 月 30 日（日）、津会場、ボランティアスタッフとしてクロークを担当】

＊大学生が被災地で実際にボランティア活動することについて、大学生側の意見、大学関係者側の意見を聞きながら議論が進みました。

参加していた大学生の多くが「誰かの力になりたい」「被災地のために何かしたい」とい

う思いを抱えているが、「どうやっていけばいいのか」「交通費などの負担」といった不安により、被災地でのボランティア活動に踏み込めずにいるという話をしてくれた。

それを聞いた大学関係者は、「学生の気持ちはよく分かるけど、被災地へ行かせるというのは危険が伴うため、快く送り出せない。」という。

双方の意見交換から、私としては学生だけで被災地へ行って活動するのではなく大学の先生が引率として一緒に行く、またはボランティア団体と行く、という「誰かの協力を得る」ことが一番だと思いました。また、大学からの理解を得ることも大事だと思いました。

「ボランティアルームで東北の被災地で活動したい」と考えていたので、この分科会に参加して、多くの人から学ばせていただけてよかったです。

【久保圭：9月30日(日)、津会場、分科会28「大学生のホンネトーク」】

5. 反省

津会場、伊勢会場共に報告書等が持ち帰られていたが、津会場にはスタッフが常駐していなかったために、どれだけの人が足を止めてくださったのか分からないため、活動への興味や疑問に受け答えることができなかった。

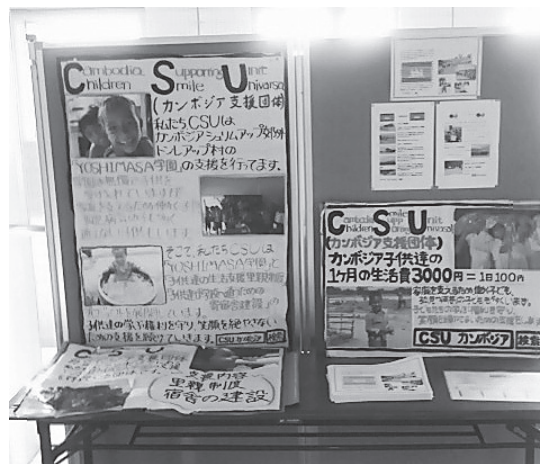
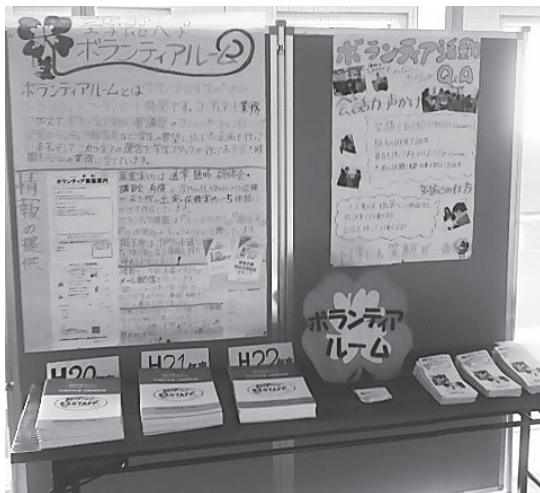
一方伊勢会場ではスタッフが二名常駐していたので、多くの参加者が足を止めてくださったことが分かった。常駐したスタッフに質問や説明を求めてきたこともあった。本学ボランティアルームの特徴である、「全ての業務を学生が運営している」ということに、かなり興味を持ってきていた。

フェスティバルが三重県で行われることや、大学が会場となることは昨年からすでに承知していた。しかし今回、分科会、展示共に参加したスタッフは少なかった。ボランティアをコーディネートし、ボランティアに深く関わっているスタッフだからこそ、スタッフ一人ひとりがフェスティバルの趣旨や、分科会の内容を知り、ボランティアルームの活動に必要なものをたくさん採り入れていくだけの意欲が欲しかったと思う。一部のスタッフだけが意欲を持つのではなく、スタッフ全体が意欲をもてるように、誘い合い、刺激しあっていくことが必要であった。

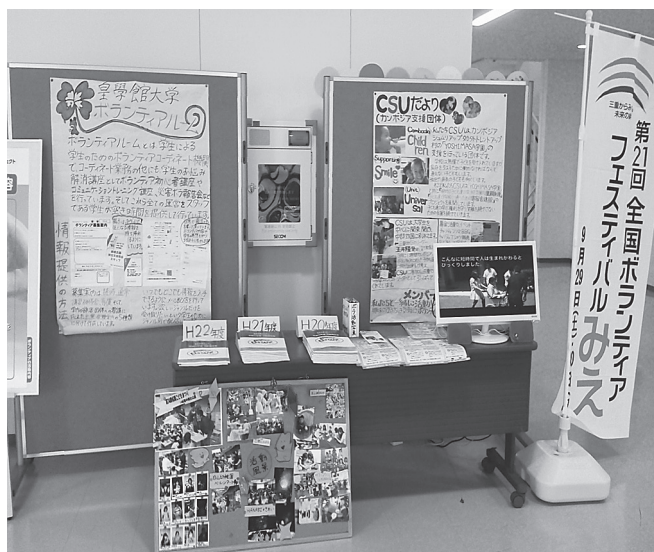
(文責：社会福祉学部社会福祉学科4年 榎本恵実)

【資料】

* 津会場



* 伊勢会場



第 51 回倉陵祭展示 活動報告

1. 目的

本年度はボランティアルームが伊勢に移転して 2 年目となる。ボランティアルームの活動を大学関係者のみならず、多くの人に知ってほしいという目的のもと、学祭で展示を行うことにした。

2. 日時と場所

展示期間：平成 24 年 11 月 2 日（金）～4 日（日）の学祭期間中

展示場所：222 教室

3. 展示内容

* ボランティアルームの活動説明ポスター

学生スタッフが空き時間を利用して運営に当たっているということ、コーディネートまでの流れ、ボランティア情報を得るにはという内容を模造紙に記したものの。ボランティアルームで実際に使用している募集要項やメール配信登録用紙などの見本を貼り付け、イメージしやすく工夫した。

* 企画活動報告ポスター

・ コミュニケーショントレーニング報告

4 月 19 日（木）に開催した、コミュニケーショントレーニング講座の様子と、学生の意見から出たコミュニケーション力に必要なことなどを模造紙にまとめたもの。

・ 鈴皇企画東北応援募金活動報告

鈴皇企画とは昨年度に行った他大学視察の視察校である鈴鹿医療科学大学ボランティアセンターとの合同企画のこと。6 月 17 日（日）に伊勢神宮内宮脇にあるおかげ横丁にて実施した。活動中の写真や募金総額を記した。

* 過年度報告書

平成 20～23 年度の報告書をそれぞれ並べ、自由に閲覧・持ち帰れるようにした。（平成 23 年度の報告書は製本版ではない。）

* CSU 活動説明ポスター

CSU とは、カンボジア支援団体のこと。名古屋を中心に活動している。（詳しくは「CSU カンボジア」。HP と Face Book もある。） 本学の教育学科 2 年生の学生が参加しており、「三重支部を作りたい」という願いから、7 月 11 日（水）には本学で説明会を実施。そのほかにもポスターや資料を展示し、共に活動をする仲間を集めている。ボランティアルームでは彼の広報活動を援助してきた。学祭では CSU の活動をより多くの人に知っていただき、協力して欲しいということで、共に展示を行った。

4. 活動報告

* 事前準備

企画の活動報告ポスターは、企画が終わると同時に作成し学内に掲示してきたものを利用。ボランティアルームの説明ポスターは全国ボランティアフェスティバルに向けて作成

したポスターを利用。また、CSU の活動展示については、実際の活動中に使用していた看板や、学内広報のために作成したポスターを利用した。そのため、事前準備のためにわざわざ時間を割くということはなく、学業にも運営にも支障はなかった。

ボランティアルームが展示することをメールの署名に記載した。そのため学生や外部との連絡の際に周知することができた。またボランティアルームの twitter にも掲載し、フォロワーを通して多くの人にこの展示を広めることができた。

* 当日

前日の 16 時から展示の準備が行われた。準備に取り掛かるまで会場となる 222 教室が角を曲がったところにあり人目につかない場所であることに気づけなかった。急遽 2 階に上がるための階段脇、階段を上ったフロア、そして教室脇の壁にそれぞれボランティアルームの展示教室を示す看板を設置した。道しるべとなり、大学関係者、一般来場者合計 36 名の来場者を得ることができた。

また展示が終了したころには報告書の内、22・23 年度の報告書がかなり少なくなっていた。

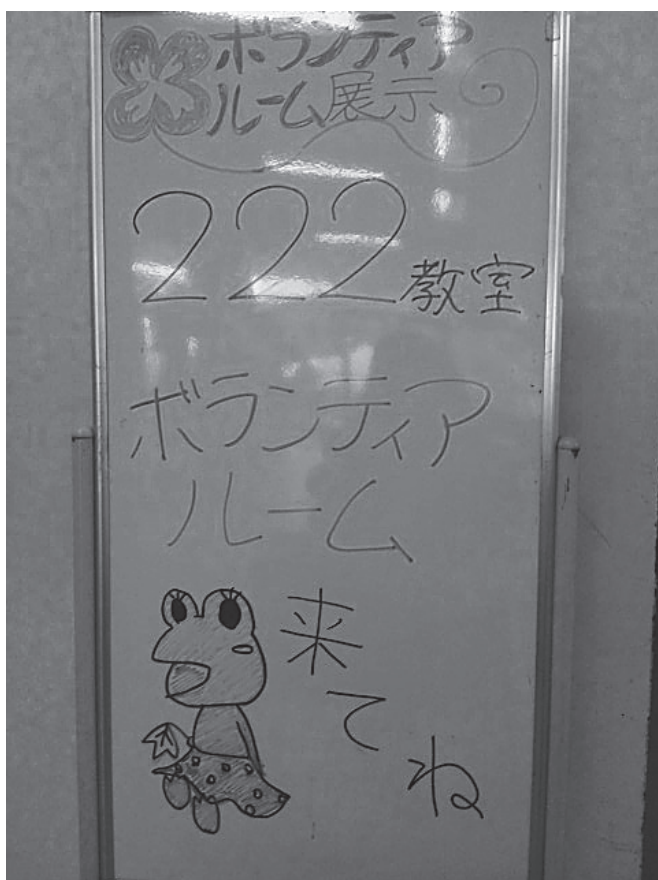
事前に考えていた内容と変更があったため、掲示板の配置が定まっておらず、手間取ってしまったが、全ての掲示板を半円状に並べることで掲示板が一目で見渡せて、すっきりとした空間作りができた。事前準備、当日、片付けにほとんどのスタッフが参加できなかったため、展示内容を大幅に削減せざるを得なかったことが残念である。そのため、当日足を運んでくださった来場者への対応ができなかった。

5. 反省

倉陵祭の期間や展示を行うことは春休みの時点から周知していたが、兼部や私情などでスタッフの確保ができなかった。そのため当初展示案として構想していた、東日本大震災支援の募金活動を行うことができなかった。また展示会場にはスタッフが誰もおらず、来場者へ直接説明を行うことができなかったため展示を見てもらうだけとなってしまった。展示物だけでは伝えられないことを伝えたり、来場者からの疑問や質問に応えたりしてこそ本当の意味でボランティアルームのことを広めることに繋がる。それが今回の展示では達成できなかった。

(文責：社会福祉学部社会福祉学科 4 年 榎本恵実)

【展示風景写真】



(階段脇の看板)

東北ボランティア 活動報告

1. 目的

東日本大震災から二年が経とうとしており、被災地の現状を自分たちの目を見て、感じて、多くの学生に伝える必要があると感じた。そして、今回の活動で学生スタッフ一人ひとりが主体的に活動に取り組めるようになることが目的である。

2. 活動内容

参加日：平成25年3月15日(金)～3月18日(日)

場所：岩手県山田町

活動主催：三重県社会福祉協議会『みえ発！ボラパックⅡ第26便』

スケジュール

3月15日	3月16日	3月17日	3月18日
17:00 アスト津出発 (車内泊)	9:30 山田町到着 10:00～11:30 山田町まなびの時間 11:40～13:20 昼食 13:30～15:30 ボランティア活動 16:00 宿泊施設着	10:00～12:00 ボランティア活動 12:10～13:20 昼食 13:30～15:30 ボランティア活動 16:30 山田町出発 (車中泊)	11:00 アスト津到着

3. 活動報告

被災地である岩手県山田町での活動として、笑いヨガ、蓄音機演奏会、新聞コサージュ作りを行いました。笑いヨガは、笑いヨガの呼吸法を組み合わせエクササイズで、笑うことで多くの酸素を体に取り入れ心身共に元気になることができます。蓄音機演奏会は蓄音機でレコードを流して鑑賞会をしました。音楽を聞くだけでなく、歌ったり踊ったりもしながら、全員で演奏会を楽しみました。新聞コサージュ作りは新聞紙を使って花のコサージュを作りました。雑談を交えながらコサージュを作るなかで、震災に遭ったの体験や家族を亡くした話をしてくれることもあり、その話を聞いたスタッフが涙する場面も見受けられました。

まず全員での活動として、3月16日の午前中、岩手県山田町に到着してから、「山田町まなびの時間」として前 釜石市甲子小学校校長で、現在は陸中海岸青少年の家 所長の菊池

さんから、発災当時の体験談を聞かせていただきました。その後昼食を食べ、午後からグループごとに分かれて仮設住宅の談話室などで活動をしました。三重ラフター(笑い)ヨガクラブさんは山谷仮設の談話室で、蓄音機演奏会さんは2組に分かれ浜川目仮設の集会所と晃生会デイサービスで、新聞コサージュグループは織笠小仮設の談話室で活動をさせていただきました。

3月17日は午前、午後で2ヵ所ずつ談話室や集会所に行ってきました。三重ラフター(笑い)ヨガクラブさんは午前中に浦の浜仮設の集会所で、午後はエフビー仮設の談話室で活動させていただきました。蓄音機演奏会さんは前日に引き続き2組に分かれ午前中は石峠橋仮設の集会所と旧平安荘仮設の談話室で、午後は関谷仮設の談話室と船越多目的広場仮設の談話室で活動させていただきました。新聞コサージュグループは午前中に船越芝生広場仮設の談話室で、午後は山田町旧長崎団地仮設の談話室で活動させていただきました。

4. 参加者からの報告

東北のボランティアのニーズは、だんだん変化しています。

私が行ったボランティアは心のケアでした。具体的には、蓄音機を使ってお年寄りの方に懐かしい音楽を聞いてもらうというものでした。

親子で蓄音機の演奏会をボランティアでしていらっしゃる方の助っ人で一緒に歌を唄ったり、踊ったりしました。

仮設の老人ホームや集会場に行かせてもらい、演奏しました。蓄音機を見たお年寄りの方は「なつかしい」や「蓄音機が家にあったのよ」など口ぐちに話してくれました。演奏会の前からいろいろな話をして、少しずつなごんだ雰囲気になっていきました。演奏が始まってからも皆さんは曲に関連する昔の話をなさっていて、会場中がわいわいと話していました。終盤に行くにつれて、たくさん笑顔が広がり、ボランティアをしている私たちも自然と笑顔になっていました。

私が一番印象に残ったことは曲が終盤にさしかかった時にありました。どの施設でも共通してあったことです。それは、笑いながら話していたのに急に災害当時の話を始め笑いながら涙を流していた姿です。辛かったこと、怖かったこと、家族の人を亡くしたことを話してくれました。その話を聞いていて、私は知らぬ間にボロボロ涙を流していました。その場所に実際に行き、自分の耳で聞いたからこそたくさんの思いが流れ込んできて、2日間という活動期間でしたが、本当に貴重な経験をさせていただいたと思います。東北ボランティアをしてから、少しですが確実に自分の中に変化を感じています。何が変化したかというのは言葉で表すのは難しく出来ませんが、ボランティアに行ったからこそ感じるができる変化だと思います。東北ボランティアでの活動はとても濃いもので、これからの人生の中で必ず生きてくるものであり、活かさなければいけないものだと思います。本当によい経験が出来たと思います。

5. 反省

今回の東北でのボランティア活動を通して、反省点として挙げたのは活動当初は現地のスタッフの方や地元の方と上手くコミュニケーションがとれなかったということである。

今回の東北でのボランティア活動でボランティアルームスタッフのほとんどが初めて被災地を訪れたことになる。このことがボランティア先で上手くコミュニケーションがとれなかったことの要因の1つであると考えられる。緊張してしまったり恥ずかしがったりしてしまった結果として、地元の方とどうやって接していいか分からずこちらから積極的に話しかけることができなかった。しかし、時間の経過とともに私たちのスタッフの緊張もほぐれ徐々にではあるが地元の方とコミュニケーションがとれていったと思われる。

活動中に地元の方の話をお聞きする機会があり、涙ながらに震災当時のことを話される姿を目にし忘れられない思いを抱えながら生活をしているのだと感じた。津波の恐ろしさや被災地の現状を一人でも多くの人に伝えていく必要があると感じたと同時に、ボランティアルームとしても今後できることを考えていかなければならないと感じた。

6. 活動風景



三重アスト津出発



岩手県山田町の風景



学びの時間～てんでんこ～



蓄音機演奏会(準備中)



蓄音機演奏会でのふれあい



新聞コサージュ作り



新聞コサージュ



ミーティング中

(文責:現代日本社会学部現代日本社会学科 1 年 久保圭,西村友希,宮本紗代
教育学部教育学科 1 年 境井太朗,北村知暉,松葉拳介,宮崎遥香)

3. アンケート報告

平成24年度全学生対象アンケート報告

【目的】

皇學館大学の学生のボランティアに対する意識調査を行い、ボランティアにどれくらい興味があるか、またボランティアがより盛んになるためには何が必要なのかということを調査し、これからのボランティアルームの活動に役立てていくことを目的として実施した。

【実施期間】

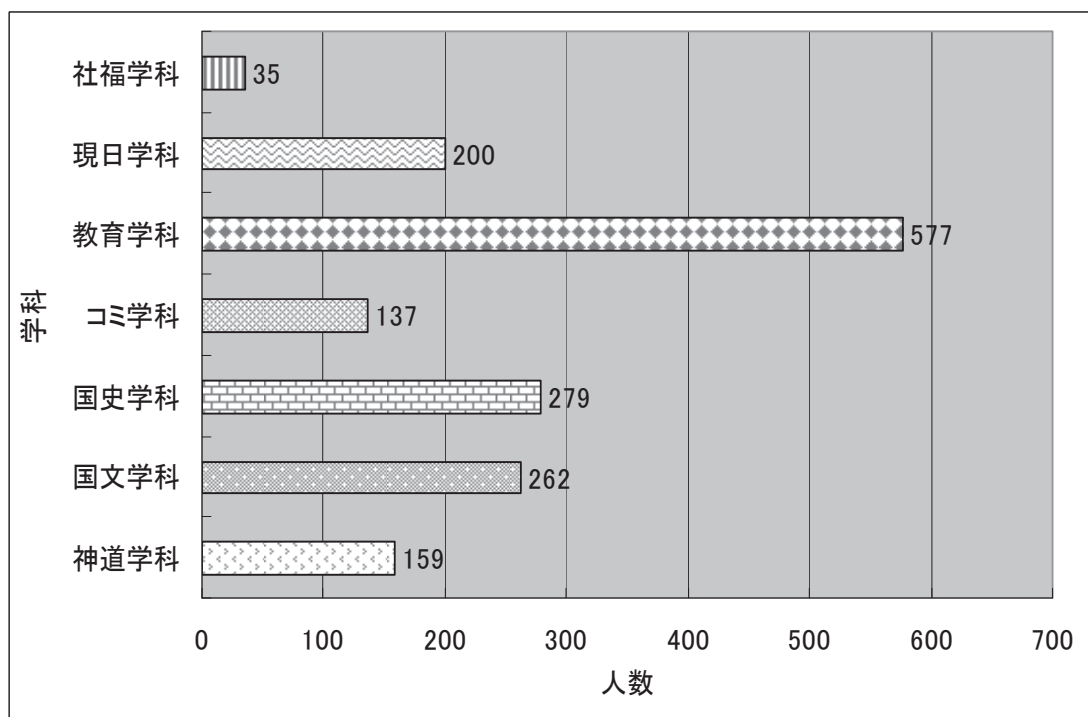
平成24年12月14日(金)～平成25年2月1日(金)

【アンケート内容】

アンケートの項目は7項目あり、主に2つに分かれている。1つはボランティアへの参加・不参加について、2つ目は当ルームからの情報の利用や掲示板の活用について質問した。

【アンケート結果】

下のグラフはアンケート回答してくれた人数をグラフにしたものである。



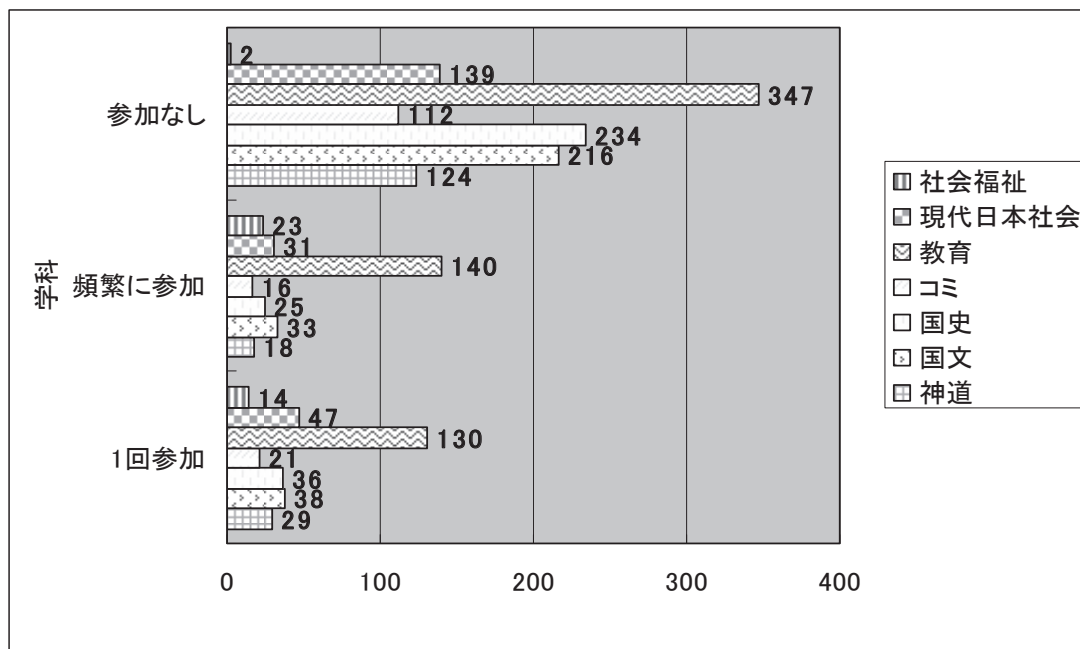
今年は登録学生だけでなく全学年にアンケート調査を行ったため、昨年より明確に今後の課題が見えてきた。

①ボランティアの参加経験

今までどれだけボランティアに参加したことがあるかを調査した。

選択肢は以下のとおりである。

1. 1回参加 2. 頻繁に参加 3. 参加なし

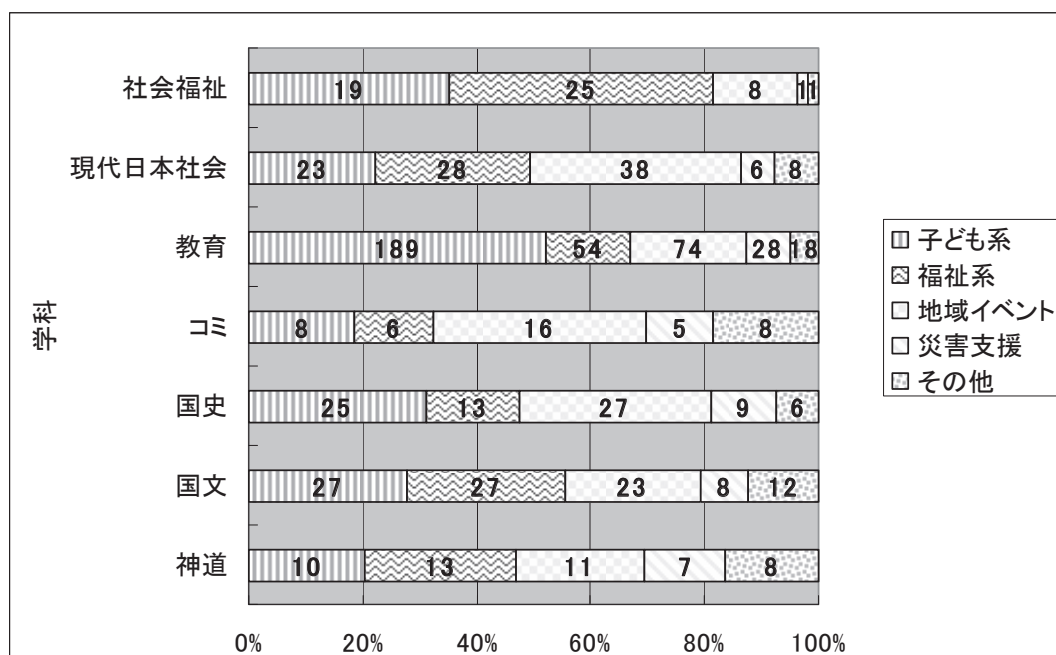


1回参加する学生も頻繁に参加する学生も大きな違いがなく、どの学科も参加なしの回答が多い。人と関わることの楽しさ、成長できる、多くの経験を積むことが出来るなどボランティアの良さを伝えていき、参加なしの学生が1回でも多くボランティアに参加してもらえるようにしていかなければならない。参加したことがある学生は教育学部が最も多い。子ども系のボランティアが多いためであると思われる。アンケートに関しての意見では「数回参加の項目がほしい」など過去に参加はしていたが今は忙しく参加できていないという意見が多く寄せられた。

②ボランティアの参加ジャンル

ボランティアルームでは提供する情報を3つにジャンル分けし、そこから学生はジャンルを選択し、『ボランティア登録』をする。登録学生になることで希望の情報を随時、メールで受信できるという方式をとっている。今回は①で1、2を選択した学生にどんなジャンルのボランティアに参加したことがあるかを調査した。選択肢は以下のとおりである。

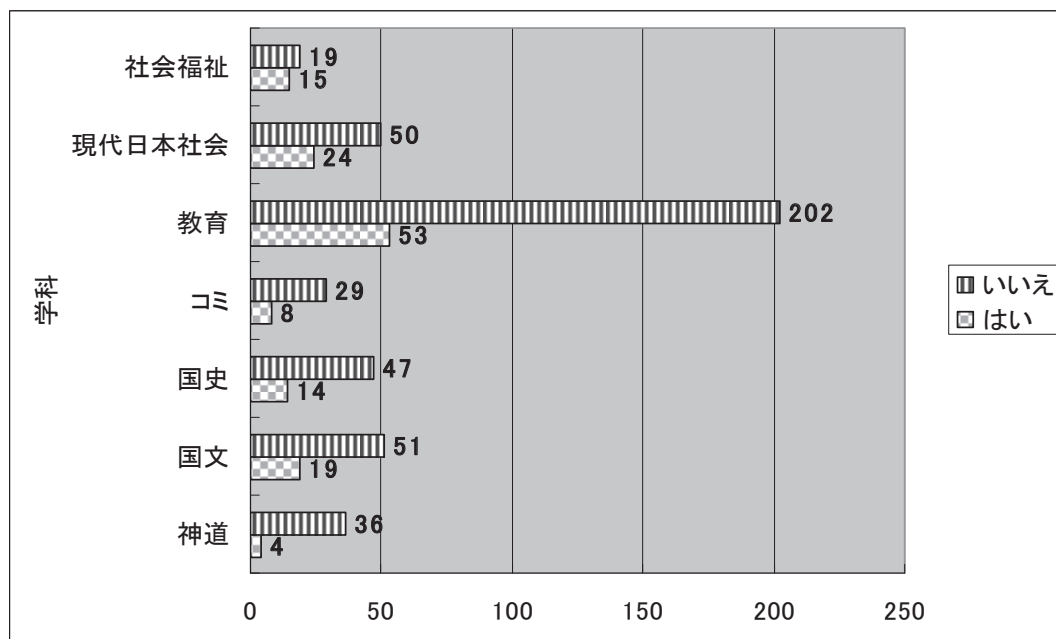
1. 子ども系 2. 福祉系 3. 地域イベントスタッフ 4. 災害支援 5. その他



教育学部は子どもとかかわることの出来る「子ども系」の参加が多く、その他の学科は参加のしやすい「地域イベント」が多い。「災害支援」に関しては、災害発信を積極的に行い、震災などを風化させないように取り組むとともに多くの学生にボランティアに行ってもらいたい。「その他」のボランティアはサークル活動の一環、人権に関するものや清掃活動などがあつた。

③ボランティアルームの情報の利用

当ルームからの情報でボランティアに参加したかを質問した。



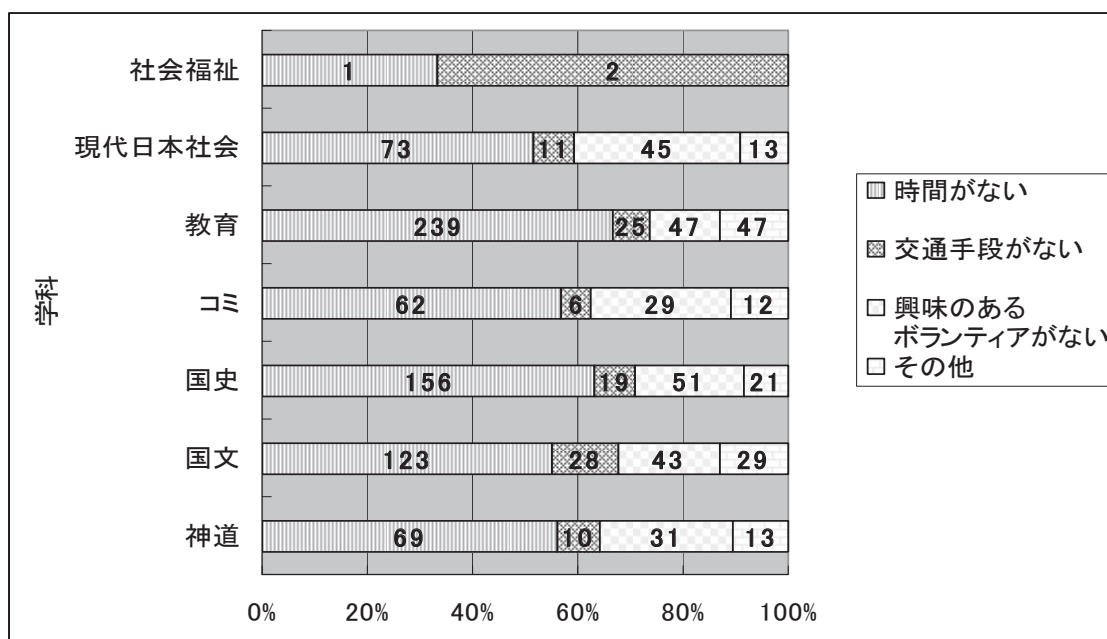
当ルームの情報よりも個人的に申し込んで参加している生徒が多い。大学でのボランティアの参加の仕方がわからないという意見が多い。当ルームに入りやすくなるような工夫やわかりやすいボランティアの紹介・メール配信など改善すべき点が多い。

④参加しなかった理由

①で3を選択した学生にボランティアの参加経験がない理由を尋ねた。

選択肢は以下のとおりである。

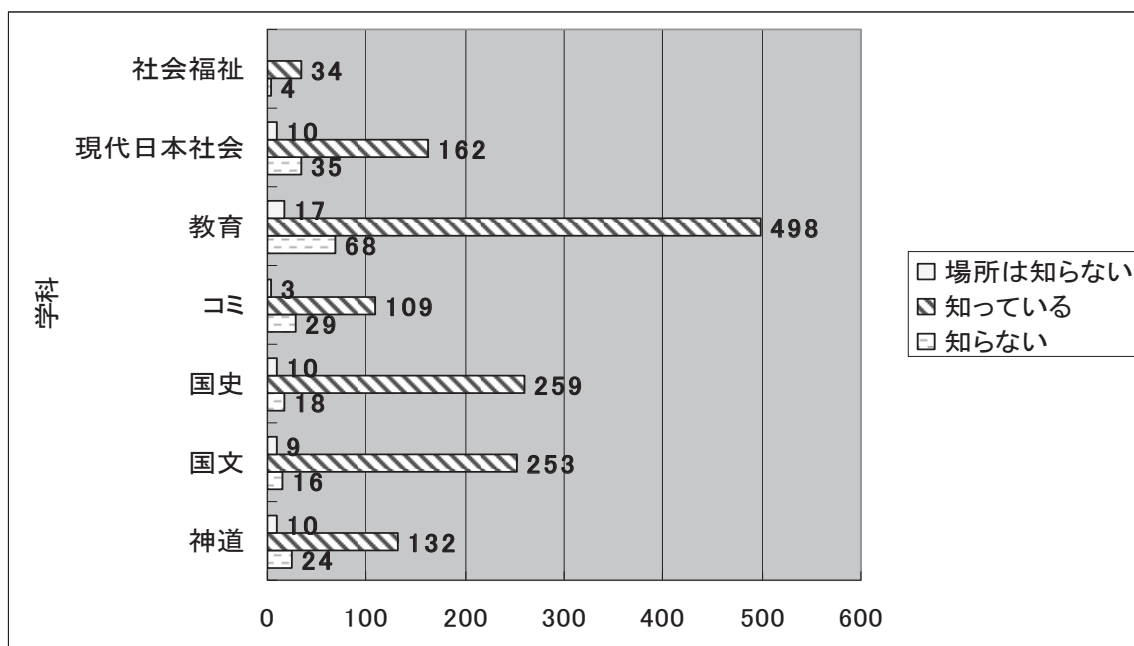
1. 時間がない 2. 交通手段がない 3. 興味があるボランティアがない 4. その他



参加しない理由で最も多かったのは「時間がない」であった。アルバイトや勉強など、自分の時間も大切にしたいと思っている人が多いと伺えた。次に多かったのは「興味のあるボランティアがない」であった。来年は「ボランティアに興味がない」という項目を作り、人数を調べたいと思う。今後は学生が興味を示すような紹介やボランティアを身近に感じられるような交流会などを開いてさまざまな学生がボランティアに興味を持ってくれるようにしていきたい。その他には学生の意見を書いてもらった。「ボランティアの情報が少ない」や「踏み出す勇気がない」「他人と連携をとるのが苦手」などがあった。ボランティアに対しての偏った考え方を改善していくのもコーディネートするボランティアルームの大事な仕事であることが再確認できた。

⑤ボランティアルームの存在を知っているか

学生のためにコーディネートを行っている当ルームについて、どれだけの学生が知っているのかを調査した。

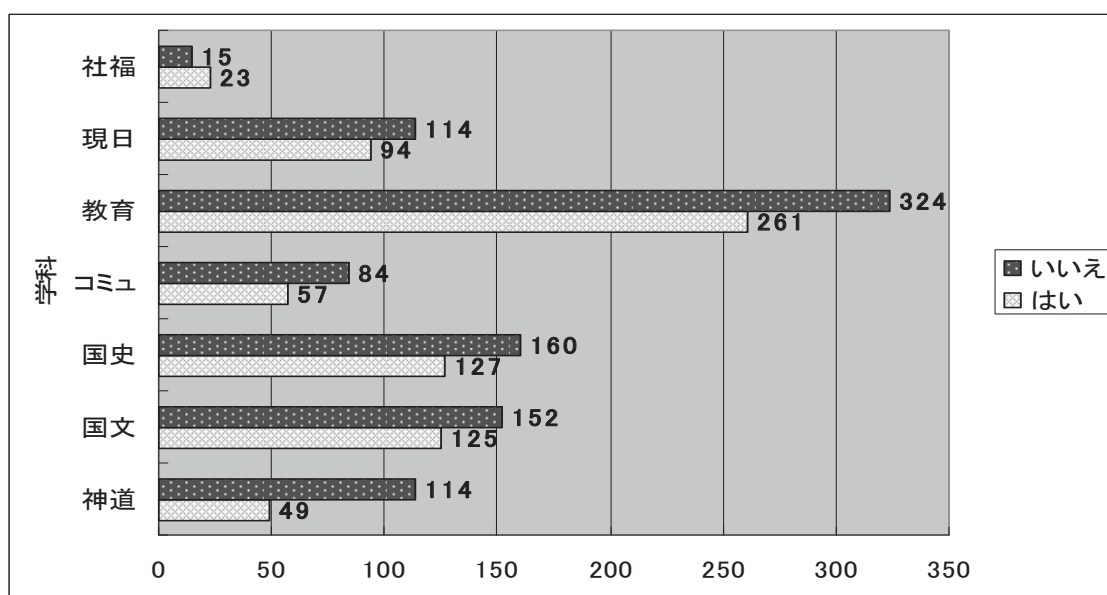


当ルームは多くの学生に知ってもらえていることがわかる。今後は場所をわかりやすく工夫し、ルームの場所を明らかにし、ボランティアの大切さや参加することの楽しさを伝えていきたい。

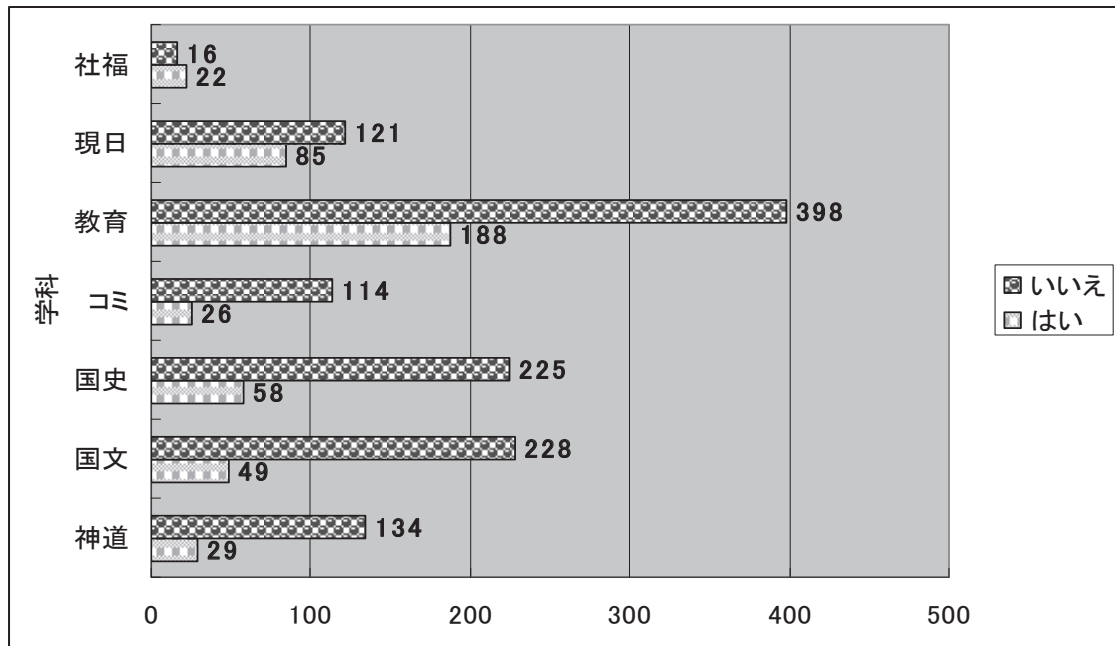
⑥ボランティア掲示板の利用について

ボランティアルームでは登録者へのメール配信に加えて、登録者以外の学生にも広く知ってもらうため学内に掲示板2ヶ所設けている。1つは教育棟に併設している6号館1階にあるラウンジ前、もう1つは2号館1階ボランティアルーム前に設置してある。

1. 2号館1階の掲示板の活用



2. 6号館1階の掲示板の活用



掲示板について、2号館は当ルーム付近ということで目にふれることが多いと思われる。しかし、6号館の掲示板は自分で見に行かないと目に付かないということで活用している学生が少ない。学生が注目するような装飾やわかりやすい掲示の工夫をしていかななくてはならない。

⑦ボランティアルームへのメッセージ

アンケートの最後に当ルームへの要望やメッセージを書いてもらった。

「当ルームへの応援」や「運営についての意見」、「ボランティアに対しての興味を持った」などの多くのメッセージを頂いた。肯定的な意見だけでなく、「メール配信の文が長い」や「募集期間やメール配信に余裕をもってほしい」、「ルームに入りづらい」など参加する前の段階での不満も多かった。

【全体を通して】

ボランティアの情報提供に登録してくれる学生を増やすことができ、情報発信を積極的に行い、掲示板によりルームの存在を多くの人に知ってもらうことが出来た。今後の課題は「興味を持ってもらえる情報発信」となってくる。「興味」を持ってもらうことが出来れば、ルームに足を運んでくれる人が増え、ボランティアを身近に感じてもらえるだろう。

(文責：教育学部教育学科1年 川村亮仁、宮崎遥香)

4. 資 料

平成24年度ボランティアルームスケジュール

日時	場所	内容
平成24年3月29日(木)	記念講堂	ボランティアルームの案内配布(4年生)
平成24年3月30日(金)	記念講堂	ボランティアルームの案内配布(2・3年生)
平成24年4月4日(水)	記念講堂	ボランティアルームの案内配布(1年生)
平成24年4月5日(木)12:30~13:00	ボランティアルーム	第1回ルームミーティング
平成24年4月14日(土)17:00~19:00	伊勢中川	鈴皇企画第1回打ち合わせ
平成24年4月19日(木)17:00~18:00	711教室	コミュニケーショントレーニング講座
平成24年4月25日(水)16:30~17:30		ボランティア体験談
平成24年4月26日(木)16:30~17:30		初心者講座
平成24年4月28日(土)17:00~19:00	伊勢中川	鈴皇企画第2回打ち合わせ
平成24年5月13日(日)10:00~12:00	鈴鹿医療科学大学	鈴皇企画第3回打ち合わせ
平成24年6月4日(月)12:30~13:00	ボランティアルーム	第2回ルームミーティング
平成24年6月17日(日)9:30~15:00	伊勢神宮内宮	鈴皇企画合同募金活動
平成24年6月18日(月)12:30~13:00	ボランティアルーム	第3回ルームミーティング
平成24年7月2日(月)12:30~13:00	ボランティアルーム	第4回ルームミーティング
平成24年7月12日(木)16:30~17:30	711教室	上半期報告会
平成24年7月16日(月)12:30~13:00	ボランティアルーム	第5回ルームミーティング
平成24年7月30日(月)12:30~13:00	ボランティアルーム	第6回ルームミーティング
平成24年8月1日(水)15:00~16:00	512教室	第7回ルームミーティング
平成24年9月24日(月)12:30~13:00	ボランティアルーム	第8回ルームミーティング
平成24年9月29日(土) ~平成24年9月30日(日)	三重県総合文化会館 皇學館大学	全国ボランティアフェスティバルみえ
平成24年10月1日(月)12:30~13:00	ボランティアルーム	第9回ルームミーティング
平成24年10月22日(月)12:30~13:00	ボランティアルーム	第10回ルームミーティング
平成24年10月29日(月)12:30~13:00	ボランティアルーム	第11回ルームミーティング
平成24年11月2日(金) ~平成24年11月4日(日)	222教室	第51回倉陵祭展示
平成24年11月14日(水)16:00~17:30	記念講堂	全学生対象アンケート実施(4年生へ配布・回収)
平成24年11月19日(月)12:30~13:00	ボランティアルーム	第12回ルームミーティング
平成24年11月23日(金)12:30~13:00	ボランティアルーム	第13回ルームミーティング
平成24年11月 ~平成24年12月	各授業、ゼミ室にて。	全学生対象アンケート実施(1・2・3年生へ配布・回収)
平成24年12月3日(月)12:30~13:00	ボランティアルーム	第14回ルームミーティング
平成24年12月14日(金)12:30~13:00	ボランティアルーム	第15回ルームミーティング
平成24年12月20日(木)		忘年会
平成24年12月21日(金)12:30~13:00	ボランティアルーム	第16回ルームミーティング
平成24年12月27日(木)		仕事納め
平成25年1月7日(月)		仕事始め
平成25年1月15日(火)12:15~13:30	233教室	県警意見交換会
平成25年1月18日(金)13:00~	中川ガスト	鈴皇ミーティング
平成25年1月17日(木)12:30~13:00	ボランティアルーム	第17回ルームミーティング
平成25年1月25日(金)16:30~	722教室	メッセージfrom東北(第1部)
平成25年1月25日(金)18:00~	722教室	メッセージfrom東北(第2部)
平成25年2月8日(金)10:00~	712教室	反省会、作戦会議、追い出し会
平成25年2月9日(土)16:00~	中川ガスト	鈴皇ミーティング
平成25年2月19日(火)9:00~	752B教室	計画会議
平成25年2月19日(火)13:00~	ボランティアルーム	大掃除
平成25年3月12日(火)	ボランティアルーム	第17回ルームミーティング
平成25年3月15日(金)~18日(月)	東北	ボランティア

平成24年度 ボランティア募集一覧								
No	名称	所在地	施設名	内容	日時	その他	締切	参加学生
1	花ももを植えよう！	伊勢市朝熊町輪谷4383-4	三重県営サンアリーナ	サンアリーナ周辺に 花ももを植樹	平成24年 4月22日(日) 9:00～12:00	持ち物 軍手・帽子・飲み 物	平成24年 4月12日(木)	5
2	志摩ロードパーティー2012 バリアフリーパーティーラン	志摩市磯部町坂崎952-4	説明会:志摩市商工会館 志摩スペイン村周辺	ランナーの補助・給水活動	説明会:平成24年 4月16日(月) 19:00～ 当日:平成24年 4月22日(日) 8:00～14:00 ボラ交流会:当日14:00～	特典あり Webで申し込み 大学での説明会 あり	平成24年 4月12日(木)	4
3	志摩ロードパーティー2012 本部ボラ	志摩市磯部町坂崎952-4	説明会:志摩市商工会館 志摩スペイン村周辺	ランナーの補助・給水活動	説明会:平成24年 4月16日(月) 19:00～ 当日:平成24年 4月22日(日) 8:00～14:00 ボラ交流会:当日14:00～	特典あり Webで申し込み 大学での説明会 あり	平成24年 4月12日(木)	12
4	松阪こども祭り	松阪市立野町1370	松阪市中部台公園 芝生広場	迷子の対応・アナウンス 各出店団体補助 風船準備 着ぐるみを着て子どもたちと交流する	平成24年 4月22日(日) 8:30～16:00	昼食あり	平成24年 4月9日(月)	5
5	東日本大震災 チャリティーイベント in安土桃山文化村		伊勢安土桃山文化村	竹灯籠作りの呼びかけ イベント補助、会場見回り 料理提供	平成24年 5月19日(土) 16:00～21:00	招待券あり 学内説明会あり	平成24年 5月14日(月)	6
6	鳥羽駅ボランティアガイド		近鉄鳥羽駅周辺	観光客に道案内や観光のアドバイス 身体の不自由な方や困っている方へのお手伝い 車いす・ベビーカーの貸し出し手続き	平成24年 5月3～5日(木)～(土) 9:30～12:30 12:30～15:30	半日研修日 4月28日(土) 10:00～13:00	平成24年 4月23日(月)	
7	車いすでの神宮参拝を 助け合おう		伊勢神宮 内宮	長い間神宮へ参拝していない方と 一緒に神宮参拝	平成24年 6月3日(日) 8:50～11:00	練習日 5月27日(日)	平成24年 5月21日(月)	1
8	鈴皇企画 東北応援募金スタッフ		おかげ横丁	鈴鹿医療科学大学ボランティアセンターとの 合同企画 東北支援のための募金活動	平成24年 6月17日(日)		平成24年 4月26日(木)	11
9	子どもふれあい教室の活動支援	志摩市阿児町輪方2014-5	志摩教育支援センター	ふれあい教室に継続している児童・生徒の 諸活動の支援 話し相手や勉強の手助け 野外活動、調理実習などの活動支援や 指導員の補助	登録日から平成25年 3月31日までの期間 月1～2回程度	面接あり	平成24年 4月23日(月)	
10	ふれあいの集い(司会)		ハートフル三雲スポーツセン ター	踊りの観賞・体験、ジャンケンゲーム等の 司会進行	平成24年 6月10日(日) 9:00～15:00	持ち物 体育館シューズ 飲み物 昼食支給あり	平成24年 5月21日(月)	4
11	ふれあいの集い(ボランティア)		ハートフル三雲スポーツセン ター	受付から閉会、会場整理	平成24年 6月10日(日) 9:00～15:00	持ち物 体育館シューズ 飲み物 昼食支給あり	平成24 5月21日(日)	3
12	第16回 ふれあい広場 福祉まつ り		二見老人福祉センター前 駐車場	ふれあい広場の運営スタッフ (ミニSLのスタッフなど)	平成24年 5月20日(日) 9:30～13:30 準備:平成24年 5月18日(金) 9:00～	昼食持参	平成24年 5月7日(月)	
13	車いす体験 ふれあいウォークラリー大会 実行委員募集		津センターバース3階 介護実習室	イベント運営 車いす介助方法やイベント運営も学べる	実行委員: 毎週土曜日 18:30～20:30 当日:平成24年 6月3日(日)	当日スタッフも 同時募集	平成24年 5月17日(木)	1
14	答志島クリーンボラ	鳥羽市答志島	鳥羽市答志島 奈佐の浜	漂着ゴミの現状視察と奈佐の浜海岸清掃1時間 昼食後、海野博物館へ	平成24年 6月9日(土) 9:30～	会費3000円	バス利用者 平成24年 5月10日(木) 現地集合者 平成24年 6月7日(木)	
15	ひまわりコンサート		伊賀市文化会館	コンサート当日の準備や受付 利用者が作った製品の販売	平成24年 7月8日(日) 9:00～16:00	昼食持参	平成24年 6月7日(木)	1
16	三重県ふれあいスポレク祭		四日市ドーム	玉入れ競争などの競技補助 レクリエーションゲームや音楽発表の運営補助	平成24年 6月23日(土) 10:30～15:00	昼食持参	平成24年 6月7日(木)	2
17	はじめよう。いま自分にできるこ と！		伊勢市内	「いせトピア」のイベントなど、市内を主に 子どもを対象としたイベントへの参加 ボランティア活動についての 参加体験学習会への参加	平成25年3月末までの 8回程度		平成24年 5月28日(月)	6
18	子どもたちとふれあおう！		伊勢トピア	乳児～小4までの10人程度の子どものお世話	平成24年 6月24日(日) 13:30～16:30	飲み物持参	平成24年 6月21日(木)	3
19	はなのその 夏祭り	度会郡玉城町勝田字濱塚	介護老人福祉施設 はなのその	夏祭りの出店の手伝い 利用者さんの付き添い	平成24年 7月29日(日) 16:30～17:00		平成24年 6月28日(木)	3
20	"I love ISE"推進運動 こころの宝探し2012	伊勢市横輪町	横輪町公民館 横輪川周辺	横輪町公民館広場でレクリエーションのお手伝い	平成24年 8月19日(日) 9:00～17:00 雨天時:8月26日(日)	昼食あり	平成24年 6月28日(木)	3
21	三重県ふれあいスポレク祭へ 一緒に行きませんか？		四日市ドーム	明和総合体育館からバスで一緒に行き 四日市ドームで行われるスポレク祭へ一緒に参加	平成24年 6月23日(土) 7:50～17:00	明和総合体育館 に 集合	平成24年 6月21日(木)	3
22	風の丘 夕涼み会	多気郡多気町相可	障がい者支援施設 風の丘	利用者さんとのふれあい ゲーム・出店の手伝い	平成24年 7月14日(土) 18:00～20:30	交通費支給	平成24年 7月5日(木)	
23	風の丘 風子祭	多気郡多気町相可	障がい者支援施設 風の丘	ゲーム・出店の手伝い及び設営・片付け 利用者さんとのふれあい	平成24年 10月28日(日) 9:00～15:30	昼食支給 交通費支給	平成24年 10月1日(月)	3
24	白山幼稚園夏祭り バルーンアート		白山幼稚園	白山幼稚園の夏祭りでバルーンアートのお手伝い	平成24年 7月7日(土) 16:30～19:00		平成24年 6月28日(木)	
25	HANABI+きれい 2012		宮川河畔	宮川の火花大会でごみナビ	平成24年 7月14日(土) 15:30～23:00 雨天時:9月8日(土)	Tシャツ・夕食 飲み物支給 専用シャトルバス あり	平成24年 6月28日(木)	12
26	松阪市障がい児サマースクール		松阪市内各開催場	児童と一緒にレクリエーションに参加 介助の必要な児童に対しての付き添い	平成24年 7月23日(月)～8月9日(木) 9:00～16:00	昼食支給	平成24年 7月16日～ 各開催日随時締切	2
27	伊勢市中央児童センターまつり	伊勢市八日市場町13-1	伊勢市福祉健康センター内 伊勢市中央児童センター	ポップコーン等の提供 各遊びコーナーの説明	平成24年 8月24日(水) 13:30～16:00	12:30集合 飲み物持参	平成24年 8月23日(木)	3
28	小学生対象夏休みサマースクール		松阪市福祉館	子どもたちと一緒にキャンダル作りやお菓子づくり 見守りやお手伝い	平成24年 8月8日(水)8月17日(金)8月27日 (月) 11:00～16:00		平成24年 7月30 (日)	32
29	海のクリーンあつぷ		有滝漁業組合裏広場 有滝大浜海岸	大浜海岸周辺を一斉清掃	平成24年7月16日(月) 9:30～11:30	持ち物 汚れてもいい服 靴、帽子、タオル、 飲み物	平成24年 7月 12日(木)	1
30	アミーユ松阪 お祭りボランティア		介護付き有料老人ホーム アミーユ松阪	施設内のイベント・出店の手伝いイベント・ 出店の手伝い	平成24年7月21日(土) 16:00～19:30	16:00集合 動きやすい服装	平成24年 7月9 (日)	
31	介護老人保健施設カトレア 夏休みボランティア		介護老人保健施設カトレア	施設内のイベント・出店の手伝い	平成24年 8月1日(水) 16:30～20:00	16:30集合 動きやすい服装	平成24年 7月19日(木)	
32	祇園祭り チャリティー屋台 第一弾!		松阪駅前商店街周辺	肉うどん、ポップコーンの販売、 ボランティア登録募集のチラシ配り	平成24年 7月14日(土) 9:00～20:00		平成24年 7月12日(木)	

33	祇園祭り チャリティー屋台 第二段!		松阪駅前商店街周辺	肉うどん、ポップコーンの販売、 ボランティア登録募集のチラシ配り	平成24年 8月4日(土) 13:00～21:30		平成24年 7月26日(木)	2
34	シルバーケア豊壽園 夏夜祭		シルバーケア豊壽園	模擬店の軽食準備・配布	平成24年 8月4日(土) 18:00～20:30	17:00集合 動きやすい格好	平成24年 7月30日(月)	
35	津市白山町倭小学校 夏休み 昼放課後クラブ		三重県津市白山町倭小学校	子どもたちと遊び、夏休みの宿題の手伝い	平成24年 7月20日(金)～8月31日(金) ①8:30～12:30 ②12:30～17:30 (時間・日数は相談)		平成24年 7月19日(木)	
36	100万人のキャンドルナイト伊勢		勢田川沿い	勢田川に1m間隔でキャンドルを並べる	平成24年8月4日(土) 17:00～ 〈片づけ〉 平成24年8月5日(日) 7:00～	岡本公園 河崎商人館前 JA伊勢浜郷支店 新田排水機上 のいすれかに 17:00までに集合	平成24年 8月2日(木)	
37	小学生対象パン教室のお手伝い	四日市室町町645-1	四郷地区市民センター 2階会議室	子どもたちを対象としたパン教室の託児ボランティア	平成24年 9月2日(日) 13:30～16:30	〈説明〉 8月21日(火)、 25日(土)〔津市〕 14:00～15:30 27日(月)〔津市〕 19:00～20:00 29日(水)〔伊勢〕 14:00～15:30 19:00～20:30	平成24年 7月19日(木)	6
38	全国ボランティアフェスタ 会場スタッフ		〈津会場〉三重総合文化セン ター 〈伊勢会場〉皇学館大学	受付、会場内外の案内、分科会の運営補助	平成24年 9月29日(土)・30日(日) 〈1日のみの参加OK〉		平成24年 8月9日(木)	4
39	セブテンバーコンサート スタッフ		ハートプラザみその	会場のスタッフ	平成24年 9月1日(土) 13:00～15:00		平成24年 8月23日(月)	1
40	三重県障がい者スポーツ大会陸 上競技ボランティア	伊勢市宇治館町510	三重県県営総合競技場	陸上競技の進行に関する補助等	平成24年 9月14日(土)〔前日準備〕 13:00～16:00 9月15日(土) 10:00～15:30	9月14日(金) 12:50集合 9月15日(土) 8:00集合 昼食が支給	平成24年 8月2日(木)	5
41	玉城勝田ぶどう祭り	玉城町勝田	上の山ぶどう畑	ぶどう祭りのスタッフ補助	平成24年 8月18日(土) 10:00～14:00	平成24年 7月27日(金) 18:00～ レストラン 「野の花亭」 17時津駅 送迎有り	平成24年 7月26日(木)	
42	国際交流イベントin松阪!		松阪農業公園ベルファーム	料理の販売手伝い	平成24年 7月29日(日) 14:00～20:00	一部の時間帯だ けでもOK	平成24年 7月26日(木)	1
43	障がい者施設 夏祭りのスタッフボ ランティア	久保町1843-7	まつさか福祉会生活介護 向野園	障がい者施設の夏祭りのスタッフ 会場設営、盛り上げ隊、模擬店運営、会場案内など	平成24年 8月18日(土) 15:00～21:00	持ち物 動きやすい服装 軍手、飲み物、タ オル	平成24年 8月13日(月)	
44	障がい者スポーツ大会 フライングディスク競技スタッフ		三重県身体障害者総合福祉セ ンターグラウンド	フライングディスク競技の進行の補助	平成24年 11月2日(金)〔前日準備〕 13:00～16:00 11月3日(土) 10:00～15:30	11月2日(金) 12:50集合 11月3日(土) 8:30集合 昼食支給	平成24年 9月27日(木)	
45	障害者支援施設 お祭りスタッフ	四日市市波木町398-1	聖母の家	利用者さんとの関わりを見守る 模擬店の手伝い アトラクションのサポート	平成24年 10月21日(日) 10:30～15:00 雨天決行	昼食代 模擬店500円券	平成24年 9月20日(木)	1
46	スペシャルオリンピック(サッカー)ス タッフ	四日市市下海老町	北勢きらら学園	スペシャルオリンピック(障害者スポーツ大会)の スタッフ	平成24年 10:00～12:00 第4回 9月30日(日) 第5回 10月14日(日) 第6回 10月21日(日) 第7回 10月28日(日) 第8回 11月4日(日) 発表会 11月11日(日)	9:30集合	平成24年 9月27日(木) ～各開催日随時	3
47	スペシャルオリンピック(陸上競技) スタッフ		【鈴鹿会場】旭化成ケミカル(株) 鈴鹿事業場グラウンド・ 体育館 【松阪会場】三重中京大学・ 三重高校	スペシャルオリンピック(障害者スポーツ大会)の スタッフ	平成24年 10:00～12:00 第2回 9月30日(日) 第3回 10月7日(日) 第4回 10月14日(日) 第5回 10月21日(日) 第6回 10月28日(日) 第7回 11月4日(日) 第8回 11月11日(日) 発表会 11月25日(日)	9:31集合	平成24年 9月28日(木) ～各開催日随時	
48	松阪市手をつなぐ親の会「運動会」		ハートフルみくもスポーツ文化 センター	介助が必要な方たちと一緒に競技をする	平成24年 10月7日(日)10:00～15:30	体育館のシユー ズ・飲み物 昼食支給	平成24年 9月24日(月)	1
49	伊勢神宮車いすボランティア		伊勢神宮 内宮	内宮へ車椅子で参拝される方のサポートをする	平成24年 10月4日(木)10:00～11:30	スポーツタオル	平成24年 9月27日(木)	
50	徳和小学校福祉体験		徳和小学校	小学3年生を対象とした福祉体験のお手伝い	平成24年 10月4日(木) 9:00～15:00		平成24年 9月27日(木)	
51	伊勢まつり屋台スタッフ		伊勢市駅周辺	伊勢まつりの屋台で販売する団体の 販売の提供のお手伝い	平成24年 10月6日(土) 9:00～20:30	昼食代支給 交通費あり	平成24年 10月4日(木)	4
52	松阪市障害者(児)体育レクリエ ーション大会のボランティア	松阪市曽原町2678	ハートフルみくもスポーツ文化 センター	競技に参加、介助、競技用具の準備など	平成24年 11月4日(日) 9:00～15:30		平成24年 10月15日(月)	
53	青年海外協力隊		①四日市 じばさん三重 ②津 アスト津	開発途上国のボランティア派遣について、 「体験談&説明会」に参加	平成24年 10月8日(日) 14:00～ 10月19日(金) 18:30～	説明会 参加無料 予約不要 入場自由	平成24年 11月5日(月)	
54	三重県自閉症協会のサポート「あ すなろ学園」	津市城山1丁目12-3	あすなろ学園	伊勢うどん販売のお手伝い	平成24年 10月21日(日) 9:00～14:00	昼食支給 久居駅からの 送迎有	平成24年 10月11日(木)	1
55	河崎商人市スタッフ		伊勢河崎商人館 河崎本通り、河崎川の駅周辺	河崎の町並みを使った市のお手伝い	平成24年 10月28日(日) 8:30～16:00		平成24年 10月25日(木)	3
56	ハロウィンイベント準備スタッフ		津市センターバレス地下一階 真ん中交流会	小学生以下対象のハロウィンイベントの準備スタッフ	平成24年 10月20日(土) ～10月26日(金) 時間は相談		平成24年 10月18日(木)	
57	ハロウィンイベント サポートスタッフ		津市センターバレス地下一階 真ん中交流会	小学生以下対象のハロウィンイベントスタッフ	平成24年 10月27日(土) 10:00～18:00	昼食支給	平成24年 10月22日(月)	
58	三重県自閉症協会のサポート ひろがれ友情・ひろがれ仲間		お城西公園	ゲームコーナー担当、バザーコーナーで売り子	平成24年 11月25日(日) 9:00～15:00	8:00集合 16:00解散 小雨決行 雨天決行	平成24年 11月12日(月)	
59	よつば祭りボランティア		障がい者支援施設 よつ葉の家	イベントに参加	平成24年 11月3日(土) 9:00～16:00		平成24年 10月22日(月)	
60	車いすde伊勢神宮参拝プロジェク ト		伊勢神宮 内宮	伊勢神宮内宮参道での車いす介助	平成24年 11月11日(日) 第Ⅰ部 8:00～10:00 第Ⅱ部 10:00～12:00	【事前レクチャー】 10月28日(日) 皇学館大学 ①9:30～10:30 ②11:00～12:00	平成24年 10月11日(木)	5

61	第3回東日本大震災チャリティイベントin安土桃山		伊勢安土桃山文化村	竹灯籠へのメッセージの呼びかけ	平成24年 11月23日(金) 9:30～22:00	【説明会】 平成24年 11月16日(金) 19:00	平成24年 11月8日(木)	
62	ここサロンハイキング		玉城町アグリ芝生公園前 玉城町工房あぐり	ソーセージ作りを行う	平成24年 11月17日(土) 9:30～15:00解散	持ち物 エプロン、三角 巾、	平成24年 10月29日(月)	
63	伊勢の森トレイルランニングレース 2012		三重県営陸上競技会	給水や休憩所の受付 ゴール付近のスタッフ、コース誘導	平成24年 12月16日(日) 5:45～14:00	持ち物 携帯電話、メモ 帳、筆記用具 動きやすい格好	平成24年 11月24日(木)	
64	第15回三重障害者スポーツ大会 ボウリング競技		津市グランドボウル	ボウリング競技の進行に関する補助等	平成24年12月1日(土) 午前8時半集合		平成24年 10月25日(木)	
65	CSU 世界がもし100人の村だっ たら...		名古屋大学 フレンドリー南部 (アミニティハウス1階)	小学生と良き時間を過ごしサポートする	平成24年 11月11日13時～	名古屋市営地下 鉄名城線名古屋 大学駅1番出口集 大杉谷出張所前 集合	平成24年 10月29日(月)	3
66	耕作放棄地開墾(第一弾)			自然栽培に活用する耕作放棄地の開墾を行う	平成24年 10月27日、28日 10:00～15:00	参加費50円 昼食あり、夕食と 宿泊は可能 (有料)	平成24年 10月25日(木)	
67	獣侵入防止金網張り			第一弾で開墾した畑の周囲に金網を張る	平成24年 11月3日、4日 10:00～15:00	大杉谷出張所前 集合 参加費50円 昼食あり、夕食と 宿泊は可能 (有料)	平成24年 10月25日(木)	
68	氏郷まつり	松阪平生町		和紙体験等を援助する	平成24年 11月3日10:00～17:00		平成24年 11月1日(木)	
69	みえボラパーク!! 第20便	岩手県山田町		被災者のニーズに応じたボランティア活動 他ボランティア団体、グループ活動補助 新聞コンサージュ作りまたはハンドマッサージなど 指導及び補助(予定)	平成24年 11月9日(金)～11月12日(月) の4日間		平成24年 11月1日(木)	
70	みえボラパーク!! 第21便	岩手県山田町		被災者のニーズに応じたボランティア活動 他ボランティア団体、グループ活動補助 新聞コンサージュ作りまたはハンドマッサージなど 指導及び補助(予定)	平成24年 11月23日(金)～11月26日(月) の4日間		平成24年 11月15日(木)	
71	上村幼稚園文化祭のお手伝い	松阪市久保町	上村幼稚園	上村幼稚園文化祭のお手伝い	平成24年 11月23日(金)8:00～16:00	昼食あり 持ち物:帽子、 水筒、エプロン、 三角巾	平成24年 11月8日(木)	
72	第58回三重県 身体障がい者福祉大会		三重県営サンアリーナ	受付や会場内外の案内など	平成24年 11月25日(日) 9:00～		平成24年 11月13日(火)	
73	後世に残る花をもを植樹しよう!		三重県営サンアリーナ 花の広場	後世に残る花をもを植樹する 自分たちが伊勢で生きていた証を サンアリーナに残る1000本の花をもを植樹する	平成24年 11月25日(日)9:00～11:30 雨天時 12月2日(日)時間同上	小雨決行 持ち物:長靴・タオル、 軍手、帽子、 飲み物、スコップ、 つるはし	平成24年 11月19日(月)	
74	第15回三重障害者スポーツ大会 卓球競技	津市一身田大古管670-2	三重県身体障がい者総合 福祉センター体育館	卓球競技の進行に関する補助等	平成24年 1月27日(日)9:45～15:30 8:30集合	昼食あり 上履き持参 ボランティア行事 保険に加入	平成24年 11月19日(月)	
75	みんなで遊び初め! そうぶんのお正月	津市一身田上津部田1234	三重県総合文化センター	イベント運営の補助業務	平成25年 1月5日(土)11時～15時	昼食あり	平成12月6日(木)	3
76	星の街の音楽会 vol.19スタッフ		三重県総合文化センター 多目的ホール	コンサートの準備や片付けの手伝い 自閉症児者の方のサポート	平成24年 12月24日(月)11:00～16:00	昼食あり	平成24年 12月17日(月)	4
77	平成25年 三重県警大学生ボランティア		三重県内の各警察署を拠点に 活動	少年の立ち寄り支援活動、非行防止、 健全育成活動に関する諸活動	平成25年4月1日～ 平成26年3月31日 毎月数回程度の活動		平成25年1月24日 (木)	
78	あったかいもんグルメフェスティバ ル	松阪市春日町3-1	松阪競輪場内 野外特設会場	若者を中心に企業と行政が一体となり、街の商業基 盤の底上げを図る地域活性化イベント	平成25年2月9日(土)～11日 (祝、月) 全日とも9:30～19:30(シフト制)		平成25年 1月10日(木)	1
79	職員採用試験のイベントスタッフ		アスト津 アストホール	会場の準備、片付けなど	平成24年 12月18日(火)9:30～17:00		平成24年 12月13日(木)	
80	全国学生復興イベント 「全国タスキリレーin三重」staff		伊勢神宮内宮宇治橋～ アスト津立体駐車場前まで 三重県総合文化センター	タスキリレー	平成24年 3月3日(日)	近鉄各駅集合	平成25年 1月28日(月)	5
81	平成25年度自閉症協会の 活動サポート		三重県総合文化センター 生涯学習センター	子どもと一緒に過ごしサポート	平成25年 2月3日(日)11:00～15:00	昼食あり	平成25年 1月28日(月)	

平成24年度 ルームスタッフ			
	所 属	学 年	名 前
1	社会福祉学部社会福祉学科	4年	石橋 美香
2			榎本 恵実
3			岡本 華奈
4	教育学部教育学科	3年	小林 祥子
5			長谷 奈瑠美
6		1年	大谷 奈都希
7			奥野 紘規
8			川村 亮仁
9			北村 知暉
10			黒田 ゆかり
11			境井 太朗
12			松葉 拳介
13			宮崎 遥香
14	現代日本社会学部現代日本社会学科	2年	市川 弥生
15		1年	久保 圭
16			小山 菜那
17			眞田 有伊
18			西村 友希
19			宮本 紗代